週刊 YEARBOOK

日録20世紀

1903
明治36年

10|27
平成10年10月27日発行
（毎週1回火曜日発行）
第2巻第40号 通巻83号
平成10年7月31日第三種郵便物認可
¥560
講談社

ライト兄弟、初飛行！

華厳滝に投身自殺！
一高生・藤村操の青春

日本初のグルメ小説、
村井弦斎「食道楽」超人気

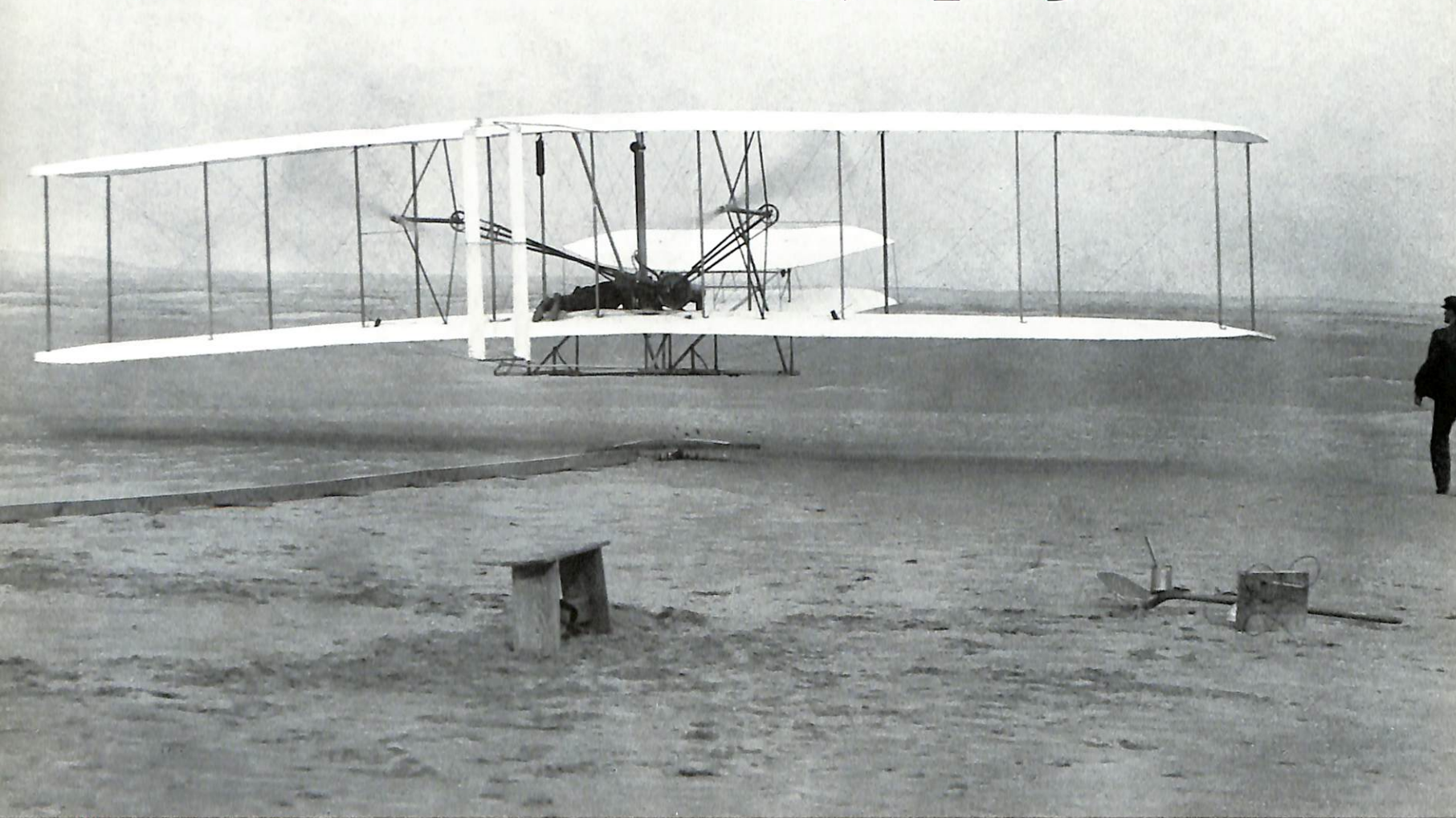
観客殺到！
第5回大阪「内国勧業博」の
経済効果

全長6.4メートル、重さ275キロの機体が舞い上がった「フライヤー1号」で初の動力飛行36メートル

ライト兄弟、世紀の12秒間！

▼重さわずか81キロのエンジンで飛び上がった歴史的瞬間。兄のウィルバー（右）が見守る中、操縦する弟・オーヴィル。

Wright State University　デジタルハウス

「フライヤー1号」が、〝前人未到〟の大空へ舞い上がった。ライト兄弟が、人類初の有人動力飛行に成功したのだ。しかし、世間は兄弟の偉業に半信半疑で、記事にしなかった新聞の方が多かった。「空を鳥のように自由に飛びたい」という人類始まって以来の夢を、彼らはみごとに実現したのである。

コインの裏表で決めた〝初飛行〟の操縦担当者

一九〇三年一二月一七日、米国・ノースカロライナ州のキティ・ホークにある「キル・デビル・ヒルズ（悪魔殺しの丘）」。大西洋に面した漁村の砂丘では、この日、秒速一〇～一二メートルの強い北風が地面の砂を吹き上げていた。

〝ブルルルッ〟——午前一〇時三〇分、主翼二枚が小きざみに揺れ始め、プロペラが勢いよくまわり、全長六・四メートル、重さ二七五キロ、四気筒一二馬力のエンジンを積んだ飛行機は地面に敷かれた木のレール上をゆっくりと滑り出した。

下翼に腹ばいになって操縦席に乗りこんだのはオーヴィル・ライト（三二）。兄のウィルバー・ライト（三六）は、レールを滑走する「ライト・フライヤー1号」の片翼を、バランスが崩れないように支えながら走り始めた。一三メートルほどレールを進んだ時、機体が地上を離れ、フワリと浮き上がる。

「おぉ、飛んだ！　飛んだ！」

海難救助隊のメンバーや見物に来ていた少年など計五人が、一斉に声をあげた。

「機体が上昇しはじめた地点から三六メートル

▲「フライヤー1号」の操縦席。弟のオーヴィルは、空気抵抗を減らし、かつ着陸時に負傷しないため、腹ばいになっている。　ワシントン航空宇宙博物館蔵　熊切圭介（下右の写真も）

▶リリエンタールが墜落死したグライダーの同型機。尾翼はあるが舵はなく、操縦がむずかしい。

◀オットー・リリエンタール。ライト兄弟に最も影響を与えた「グライダーの父」。実験中に墜落死。

◀一九〇六年一一月一二日、ブラジル人、サントス・デュモンによるヨーロッパ初の動力飛行。

◎表紙　1903年12月17日、人類長年の夢を実現し、飛行したライト兄弟の弟・オーヴィル。

Percy T Johns／ARCHIVE PHOTOS／PNI／デジタルハウス

全長6.4㍍に、重さ275㌔の機体が舞い上がった
「フライヤー1号」で初の動力飛行36㍍
ライト兄弟、世紀の12秒間！

を少し超えた時に、急降下して飛行は終わった。（中略）この飛行はたったの一二秒間だったが、それでも世界史上初の動力飛行であり、人間を乗せた機体が全行程を自力で空中に浮揚し、スピードを落とすことなく、最後には出発点と同じ高さの地点に着陸したのである」（『ウィルバーとオーヴィル・ライトの手稿』）

三六㍍を飛んだオーヴィル自身が後にそう振り返る一回目に続き、兄弟は交互に計四回を飛行。最高記録は、ウィルバーが出した二五五㍍だった（一九九三年に「毎日新聞」の取材を受けたライト兄弟の次兄・ローリンの孫、ウィルキンソン・ライトによれば、「初飛行の担当は、コインの裏表で決めた」という）。

これが、ライト兄弟が達成した、人類初の発動機を利用した有人飛行だった。

「四回セイコウ 空中平均速度四九・六㌔ ジカン五九秒 シンブンヘ知ラセ クリスマスニ帰ル」――初飛行後、兄弟はオハイオ州デイトンにいる父のミルトン（七五）へ、こんな電報を送っている。

牧師の三男、四男として生まれ、二〇代から「ライト自転車商会」を経営していた兄弟の運命を変えたのは、一八九六年に起きたドイツ人、オットー・リリエンタールの墜落死だった。憧れだったこの〝グライダーの父〟の事故死を機に、彼らは飛行機製作を開始する。

「二人のやり方は、レオナルド・ダ・ヴィンチなど先駆者たちの業績から基本を学び、簡単な道具で実験を重ねて新理論を生み出す手堅いものでした。こうした手法によって、現在の補助翼（フラップ）にあたる『ねじれ翼』や、水平尾翼の取り付け、エンジンやプロペラなどが開発されたのです」

こう語るのは、『ライト兄弟伝』の著者・斉藤潔氏である。

欧州での公開飛行に有名人の同乗者続出

ライト兄弟の快挙は、当初、母国である米国内でさえ〝眉つばもの〟として、まともに取り上げられることはなかった。

そこで、兄弟は実験を重ねてトントン拍子に記録――一九〇三年に時速四八㌔で二五五・六㍍、一九〇五年には時速六〇・八㌔で三八・八㌔を飛行――を伸ばし、欧州各国で公開飛行を繰り返す。

日本でライト兄弟の「飛行器」が紹介されたのは、一九〇七年（明治四〇）、雑誌「科学世界」などでだが、「玉虫型飛行機」を研究していた愛媛県の二宮忠八（当時・四一歳）は、兄弟の成果を知り、長年の夢を断念した。ちなみに、日本初の国産機の試験飛行（滑走のみ）は、奈良原三次の「奈良原式第一号機」によるもので、明治四三年のことだった。

一九〇八年八月五日、最新型「ライトA機」を帯同してフランス入りしたウィルバーは、巨木をいとも簡単に避けては急旋回を繰り返す技術で観客を魅了する。

「セトム・ア・コンクィ・レール！（この人は空を征服したのだ）」

と人々は叫び、新聞や雑誌も、「たんなる成功ではなく、勝利と言うべきだ」（「フィガロ」一九〇八年八月六日）と賛辞をおしまなかった。

各国で行われた兄弟の公開飛行に熱狂した著名人は、イタリアの皇太后・マルゲリータ、ドイツ皇帝・ウィルヘルム二世など、数知れない。

「ライト飛行機製作会社」を設立し、航空学校を開校した一九〇九年は、名声と金を得た彼らの絶頂期とも言えた。

「ところが、公開飛行によって多くの飛行家が兄弟の機体を観察できた結果、特許を取っていた『ねじれ翼』が次々とまねされ、二人はそのつど、特許権侵害の訴訟を起こす羽目になります」（斉藤氏）

実際、飛行機の技術革新はめまぐるしかった。フランス人のルイ・ブレリオは、一九〇九年に英仏海峡を初横断し、一九一三年には宙返り飛行に成功。一九一四年に第一次世界大戦が始まると、航空技術は軍事に転用され、空中戦や戦略爆撃戦が現れるにいたった。

こうした最中の一九一二年五月三〇日、特許裁判に忙殺されていた兄・ウィルバーが四五歳で急死。オーヴィルは、社長の座を受け継ぐが、一九一五年に所有権を売却。研究に没頭する生活に入る。

「従来、初飛行を担当した弟のオーヴィルが、飛行機の発明に貢献した中心人物とされてきました。ところがこれは、兄の死後、オーヴィルが書いた記事で定説化したもの。実際は、当時のマスコミも、そして父親のミルトンさえも、『兄の方が優れ、弟はその貴重な助手』と見ていたようです。今となっては、どちらが〝真の発明者〟だったのかは謎なわけで、これはライト兄弟に関する伝記の〝空白〟と言っていいでしょうね」（斉藤氏）

一九四八年一月三〇日、オーヴィルは自宅近くの実験室で、心臓発作を起こし死去した。享年七六。航空工学の基礎を築いたライト兄弟――その弟・オーヴィルの死は、急速な飛行機の進歩を象徴するように、ジェット機の編隊飛行によって悼まれたという。

●1902年10月10日、キル・デビル・ヒルズで複葉グライダーの試験飛行を行うライト兄弟。機体の形は、この時点でほぼ確定している。
Library of Congress／ユニフォト・プレス

▲ウィルバー（左）とオーヴィル。 Wright State University／デジタルハウス

ダ・ヴィンチから400年「飛ぼうとした男たち」史

科学者で芸術家、さらには建築家でもあったレオナルド・ダ・ヴィンチ（イタリア）は1480年代、グライダーやパラシュートの設計を試み、ノートに飛行船の原理を書き残した。それから約300年たった1783年、煙突から出る煙を見て、実際に気球を発明したのはモンゴルフィエ兄弟（フランス）。彼らは、熱した空気を紙の球に入れ、約4分30秒の有人飛行に成功する。軽金属を使った飛行船を1900年に製作したのはツェッペリン（ドイツ）である。長さ128㍍の巨大な船体には、アルミニウムが使われていた。

一方、翼の設計で成果をあげたのは、ケーリー（イギリス）だった。1809年、鳥の飛び方から、翼が曲面だと安定する原理に気づいたのだ。そこで1840年代、ストリング・フェロー（イギリス）は、単葉機の模型に蒸気発動機をつけてケーリー理論を実験。さらに、1897年にはアデール（フランス）が、こうもり型の翼を持つ「アビオン号」で初の滑空による有人飛行を達成した。ライト兄弟に影響を与えたオットー・リリエンタール（ドイツ）は、弟・グスタフと複葉グライダーを1891年に開発したが、1896年、石油発動機を載せた実験中に墜落死した。

▲▶ダ・ヴィンチのスケッチにより復元された模型。上は「はばたき飛行機」、右は「空を飛べる舟」。いずれもバネで翼を動かす構造。
レオナルド・ダ・ヴィンチ博物館蔵／熊切圭介（2点とも）

▶一九一〇年、アメリカ・セントルイスでの公開飛行で、ルーズベルト前大統領（左）も乗客となった。

「曰く『不可解』」と「巌頭之感」を残して日光・華厳滝に覚悟の投身自殺！

一高生・藤村操(一六)の"明治の青春"

◀樹幹を削り、記された「巌頭之感」。青年に広く愛誦された。後、滝の近くにあった自然石に刻され、現在は東京・青山の藤村家墓地に碑となっている。

［東洋画報］

◀藤村操は秀才の誉れ高く、中学を4年で卒業、一高に入学。「倫理宗教を超越せる純正哲学」をめざしていたという。

満一六歳一〇ヵ月の一高生、藤村操が「巌頭之感」を残して日光・華厳滝に投身自殺したニュースは、当時の青年たちに大きなショックを与えた。特に「万有の真相は唯一言にして悉す、曰く『不可解』」というフレーズは彼らの心をつかんだのである。「人生不可解」は流行語となり、後追い自殺が跡を絶たなかった。

楢の木の肌に書かれた「悠々たる哉天壌」の文

明治三六年五月二一日、藤村操（一六）は「学校へ行く」と言い残して東京・水道橋の自宅を出た。しかし、向かった先は在学中の第一高等学校（現・東京大学教養学部）ではなく、上野駅だった。午前九時発の列車に乗り、日光をめざす。日光行きの目的は自殺だった。

翌二二日早朝、宿泊先の日光町（現・日光市）の小西旅館でビールを少し飲んだ後、操は特に変わった様子も見せず宿を出る。華厳滝の滝口まで登り、持参の硯と筆、そして大型ナイフを取り出した。大ぶりな硯に水を注ぎ、ゆっくりと墨を磨る。あたりを見まわすと楢の大木が目に入った。ナイフを手に近づき、幹を削る。削られた木肌は白々と広がっていく。

操はたっぷりと墨を含ませた筆を、削ったばかりの木肌に一気呵成に走らせた。

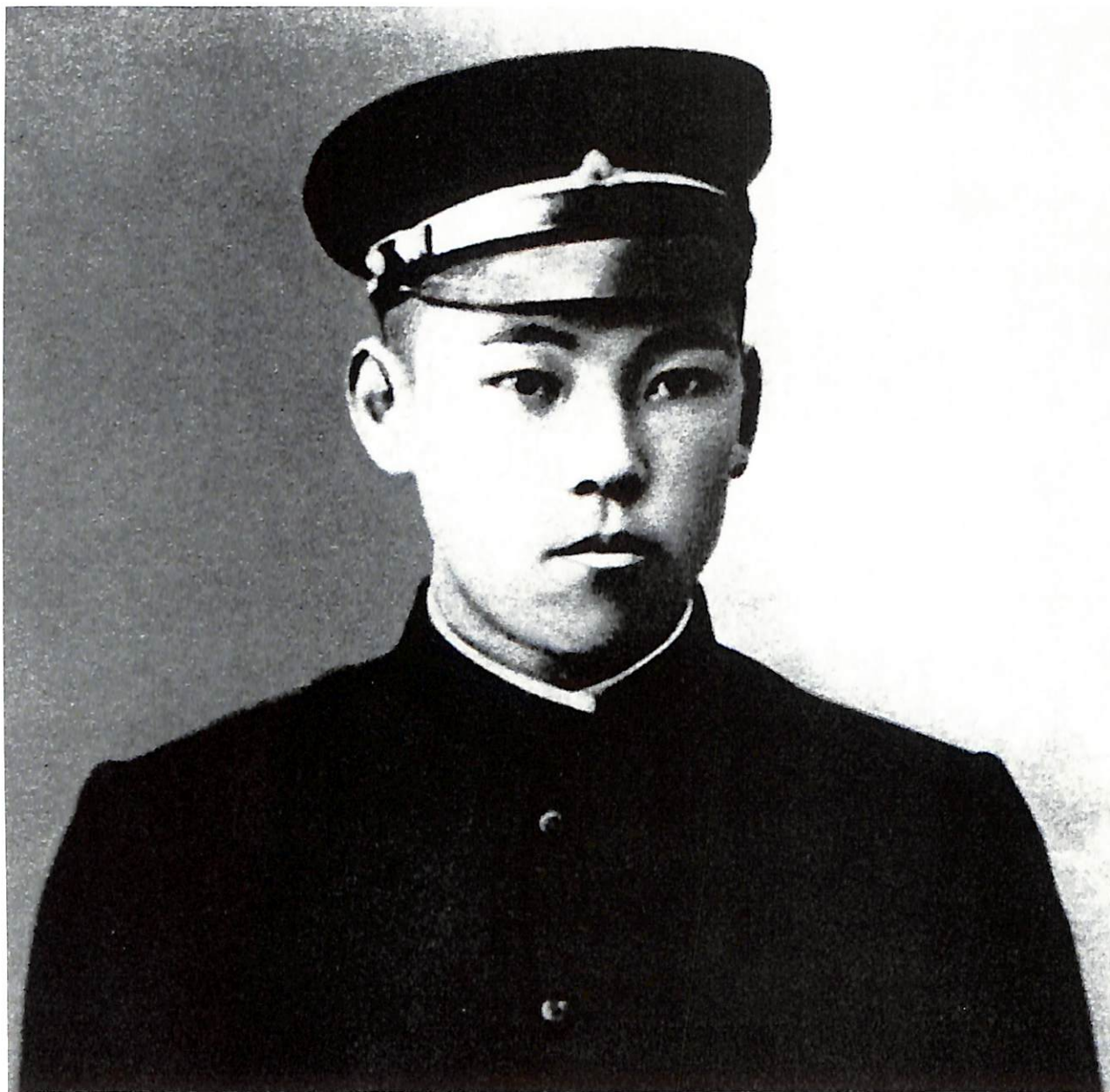
「巌頭之感——」

運筆にはいささかの乱れも見られなかった。操は、続けて筆を振るう。

「悠々たる哉天壌、遼々たる哉古今、五尺の小軀を以て此大をはからむとす。ホレーショの哲学竟に何等のオーソリチィーを価するものぞ。万有の真相は唯だ一言にして悉す。曰く『不可解』。我この恨を懐いて煩悶終に死を決するに至る。既に巌頭に立つに及んで胸中何等の不安あるなし。始めて知る大なる悲観は大なる楽観に一致するを」

これですべての準備が終わった。後は約一〇〇メートルの高みから身を投ずるだけである。操は、滝口に向かって歩き出していった。わずか一六年余の人生に、みずから幕をおろす瞬間であった。

操の自殺が世間に与えた衝撃は大きかった。『万朝報』社主の黒岩涙香（四〇）は、五月二七日の同紙に「少年哲学者を弔す」と題し、「我国に哲学者無し此少年に於て始めて哲学者を見る。否、哲学者無きに非ず、哲学の為に抵死する者無きなり」との一文を掲載して、操の死を悼んだ。

懸命の捜索にもかかわらず、操の死体はなかなか発見されなかった。そこで、遺骸のないまま、六月四日に葬儀が行わ

▶藤村操が日光に行く直前、遺書を渡した馬島千代（当時・一七歳）。評判の美人だった。

崎川範行提供

れる。遺体が発見されたのは、操の後を追って自殺した早大生捜索中の、七月二日のことであった。

"時代の煩悶"を代表して死を選んだ操の行動は、多くの青年たちの共感を呼んだ。

『絶望の天使たち』(昭和四九年・芸術生活社)で、操の自殺とその時代を取り上げた詩人の松永伍一氏は、「明治三〇年代の若き知識人の卵たちは、"自分とは何か"という問いかけをし始めた。そして、絶望するのもひとつの生き方であることを悟り、それが自殺という行動につながっていく。操の自殺は、自殺という個人の行動が社会現象になっていくはしりと言えよう」と語る。

操の死がどれだけ世間に影響をおよぼしたかは、彼をまねた青年がいかに多かったかでわかる。一高の同級生のうち三人が卒業までに自殺しているし、「約四ヵ年の今日までに、未遂、既遂を合わせてその無分別を真似たる者一八五人」(『時事』明治四〇年八月二五日)という数字も驚異的である。まさに時代の気分を反映した社会現象であった。

原因は哲学上の悩みか それとも失恋の痛手か

社会現象にまでなった操の自殺だが、その原因はさまざまに推測された。はたして哲学的な悩みが死に追いやったのか、それとも別の原因があったのか――。

たとえば、「東奥日報」はこの年七月九日付けコラム「耳と筆」で、「自殺の真相は菊池文相の令嬢に失恋」との暴露記事を掲載している。菊池文相とは東京帝大の総長をつとめた菊池大麓(四八)のことであり、令嬢とは後に美濃部達吉夫人となったたみ子をさしている。この記事は憶測の域を出なかったため、うやむやのうちに忘れ去られた。

ところが、相手こそ違うが、やはり失恋が自殺の一因であることがわかった。操の死から七九年後にして、恋人宛の遺書が発見されたのである。その遺書の持ち主は馬島千代さんと言い、操の母に茶の湯を習っていた一歳上の女性だった。彼女が昭和五七年に亡くなった際、遺品の中からみつかったのである。

遺書は評論家・高山樗牛が明治二八年に書いた小説『滝口入道』の余白に書きこまれていた。日光へ行く直前、「これを読んでください」と馬島家を訪れた操が千代に手渡したものだという。書きこみは、『滝口入道』の主人公が父親に結婚の許しを乞い、「人若き間は皆過ちはあるものぞ、萌出る時の美はしさに、霜枯れの哀れは見えねども……」と諭されるページにあった。

「そハ色ぞかし、愛にハあらじ
色ハ花よ、
無常の嵐に　散りもせむ、
愛ハ月よ、真如の光に
春秋のけじめの
あるべしやは」

操はこう言いたかったのだろう。「父親の言っているのは色のことだ。それは花が散るように色あせることもある。だが、愛は光であり、永遠なのだ」と。

いかにも明治の青年らしい不器用な愛の告白だが、ある種の気負いが感じられる「巌頭之感」よりは人間味がある。ただ、操と千代の間には具体的な恋愛関係はなく、どうやら操の片思いだったようだ。恋も哲学も、深く突きつめて考え、いつのまにやら答えを見失ってしまったというのが、一高生・藤村操の死の真相なのではなかろうか。

◀操が赤インクで書きこみをした『滝口入道』(明治36年3月、東京・春陽堂発行)。馬島千代は97歳で亡くなるまでの79年間、持ち続けていた。
崎川範行／日本近代文学館提供

▲藤村操と同世代の一高生たち。後に哲学者となった阿部次郎(前列左から二人目)や安倍能成(後列右)、岩波書店創立者の岩波茂雄(前列右から二人目)らの若き日の姿。

女たちの肖像

女性新聞記者の"第一号" 羽仁もと子が創刊した「家庭之友」と進歩的生活

稲葉真弓

この年の四月三日、日常生活の諸問題に真っ向から取り組んだ進歩的家庭雑誌「家庭之友」が発刊された。編集にたずさわったのは、日本最初の女性新聞記者で知られ、後に自由学園を設立した羽仁もと子(二九)と夫の吉一だった。一部五銭、三二ページの雑誌の内容は、"英国の交際法""家事整理の要訣""育児問答""化粧の話"まで、識者の意見を聞きそれを徹底的に研究するといったもので、これまでの保守的な婦人雑誌とはまるで異なるものだった。

彼女は後に著書の中で、創刊の意図を「何も知らない母であり主婦である私の雑誌は、専門の知識とすぐれた経験を持った人を訪問し、教えを受けることだった」と述べているが、「家庭之友」創刊の前日に長女の説子(教育評論家)を出産。雑誌は、今まさに理想的家庭を作ろうとしている彼女にとって、生きた実験場でもあったと言えるだろう。翌三七年には、みずから考案した家計簿を発行。実際に役に立ち合理的というので、主婦たちに熱狂的に迎えられた。

もと子の西欧的な思想は、キリスト教精神に深くかかわっている。明治六年、青森県八戸に生まれた彼女は、父母の離縁という不幸はあったものの、旧弊な風習にとらわれない進歩的な祖父母に愛され、合理精神と"家庭の愛"をたたきこまれた。

二二年、東京府立第一高等女学校に入学。「女学雑誌」を愛読するうち、この雑誌の影響で洗礼を受けた。卒業後は同誌の編集・校正のアルバイトをしながら明治女学校にかよい、二九年、京都の男性と結婚、半年で破局を迎え再上京した。

この時、彼女は、女医の吉岡弥生宅に住みこみ、家事手伝いをしたが、新聞ばかり読んでいるお手伝いだったという。三〇年、「報知新聞」に校正係として入社。ここで書いたものが幹部の目にとまり、文芸部記者に昇格。日本初の婦人記者の誕生だった。

明治三四年、新聞社の同僚で六歳年下の羽仁吉一と再婚。これが彼女の人生を決定した。二人で創刊したのが、合理精神をつぎこんだ「家庭之友」だったのである。四一年に同誌を「婦人之友」と改称し、編集、営業のすべてをこなした。大正一〇年には、文部省のカリキュラムによらない独自の理念による「自由学園」を設立。その人格教育、手づくりの教育は、今も多くの賛同者を得ている。昭和三〇年、吉一死去。それを追うように、三二年、八三歳で没した。

▶創刊前日に生まれた娘・説子の一歳の誕生日に。
婦人之友社／自由学園提供

勝者・敗者

豪放な梅ケ谷、沈着な常陸山 近代相撲の最初のライバル 横綱同時昇進で人気二分!

阿部珠樹

大相撲は、ライバル関係があると盛り上がる。戦後の栃若時代、柏鵬時代の印象は鮮烈だし、今の土俵に何となく熱気がないのは、貴乃花に強力なライバルがいないためだろう。

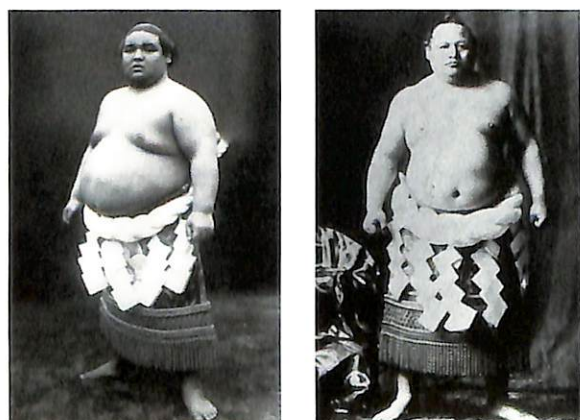
大相撲のライバル関係は、遠く江戸時代の谷風―小野川にまでさかのぼれるが、近代相撲での最初のライバル関係と言えば、「梅―常陸」、梅ケ谷と常陸山をあげておかなければならない。

梅ケ谷は明治一一年富山市の生まれ。先代梅ケ谷に巨軀をみいだされて入門し、英才教育を受けて番付を駆けあがってきた。豪放、陽性の性格で人気も高かった。

対する常陸山は、水戸市の生まれで、梅ケ谷より四歳年上。ただし入門は遅く、年下の梅ケ谷より五ヵ月後の明治二五年六月が初土俵だった。性格は沈着、冷静。

二人はこの年、明治三六年の五月場所、東西の大関にあって、人気を二分していた。そして場所後、そろって横綱免許を認められ、梅常陸時代が幕を開ける。梅ケ谷二五歳、常陸山二九歳のことである。優勝制度が登場するのは明治四二年五月場所になってからだが、それ以前の角界で頂点にあった二人は、梅ケ谷が優勝に相当する成績をおさめること四回、常陸山が六回と、互角のライバルとして明治の土俵をリードする。

しかし、引退後の二人ははっきり明暗を分けた。出羽海部屋を継いだ常陸山は、大錦、栃木山など名力士を次々に育てあげ、現役時代の栄光をさらに輝かせる。また、セオドア・ルーズベルト米国大統領を表敬訪問したり、国技館建設にも力を振るうなど、その政治力も並々ならぬものがあった。常陸山が「角聖」などと呼ばれたのは、現役時代の強さもさることながら、こうした多方面にわたる超人的な活躍があったからにほかならない。

対する梅ケ谷は、雷部屋を継ぎながら、めぼしい弟子を育てあげることができなかった。一三歳で入門し、相撲以外の世界を知らずに育ったいわば純粋培養のキャラクターは、やはり一代限りのものだったのだろうか。

▲好対照! 超アンコ型の梅ケ谷(左)と、均整のとれた常陸山。

1月

CORBIS-BETTMANN/PPS

日本美術院提供

▲**横山大観、菱田春草(右から)インドへ(1月10日)** 岡倉天心門下の二人は、日本美術院の中心として活躍。しかし「没線描写」が酷評され、新天地を求めた。

◀**米・コロンビア、パナマ運河建設合意(1月22日)** ヘイ・エラン条約を調印。が、議会の批准拒否で、パナマを独立させて実現へ。写真はルーズベルト米大統領。

▶**茂吉の義父・斎藤紀一、帝国脳病院開く(1月)** ドイツ留学を終え、東京・神田で開院。8月には青山脳病院を創設。茂吉は2年後に入籍。写真は門前で。

◀▼**大谷光尊没、光瑞(26)が西本願寺法主に(1月18日)** 光瑞(左)は探検中の中央アジアから帰国、教団近代化に尽くした父を継いだ。写真下は葬儀。

「東洋画報」

▲**山路愛山(38)、「独立評論」創刊(1月1日)** 儒教・唯物史観・キリスト教を融合した、独特の「帝国主義」を個人雑誌で主張。北村透谷との論争で名をはせ、2年後には国家社会党を結成した。

▶**中之島に「大阪ホテル」完成(1月4日)** 内国勧業博開催を2ヵ月後に控え、近代都市へ脱皮する大阪を象徴、ルネサンス風3階建ての威容を見せた。客室30。昭和16年、太平洋戦争のために廃業。

明治36年1月

1(木)●米国・サンフランシスコがホノルルと海底ケーブルで直結(7月4日、マニラ間も)。
2(金)●桂太郎首相、蔵相と相談し地租増徴をやめ海軍拡張費の財源をほかに求める方針を内定。
3(土)●東京・江戸橋郵便局集配人二〇〇人、特別手当廃止不満のスト(一〇人を日本橋署が勾引)。
4(日)●大阪・中之島に関西で初の大阪ホテル、完成。
5(月)●教科書検定収賄事件で茨城県の視学官一人と小学校長二人を勾引、東京へ護送。
6(火)●横浜正金銀行、香港為替を円から両に改称。
7(水)●青森の郡市長会議で凶作地救済の対策を協議。
8(木)●東京でペスト流行、患者収容病院医長も罹患。
9(金)●歌舞伎座興行の場代、桟敷五円五〇銭、平土間三円五〇銭、三階二五銭、と新聞に。
10(土)●横山大観・菱田春草、インド旅行に出発。
11(日)●東京全輪倶楽部、上野で自転車競走会を開催。
12(月)●日本体操学校、女子部を設置。
13(火)●ポリネシア、高潮災害で数千人死亡。
14(水)●東京・神田の剣道場主夫妻が竹刀で夫婦喧嘩、妻は重傷、夫は警察へ、と新聞に。
15(木)●鹿児島線、国分―横川間が開通し開業。
16(金)●静岡県焼津で大火、約六〇〇戸を延焼。
17(土)●福岡県の潤野炭坑で爆発事故、死者六四人。
18(日)●清国、「義和団事件」の賠償支払い不能を宣告。
19(月)●伊・マルコーニが開発の無線で、米大統領の挨拶を大西洋をへだてた英国王に送信成功。
20(火)●山陽鉄道、神戸―下関間に急行の運転開始。
21(水)●米国・ブロードウェーでミュージカル「オズの魔法使い」開演、二九三回のロングランに。
22(木)●米国とコロンビア、パナマ運河建設のヘイ・エラン条約調印(コロンビア議会否決)。
23(金)●夏目漱石、英国留学から三年ぶりに帰国。
24(土)●米・英、金鉱発見によるアラスカ国境問題で、カナダを無視し法律家委員会設置を合意。
25(日)●英国船、日米両国の難破船を救助し横浜入港。
26(月)●神奈川県藤沢駅で停車する前に飛び降りた乗客が車両に引きずられ一ヵ月の重傷を負う。
27(火)●漢城(現・ソウル)・仁川に綿糸トラストが成立。
28(水)●東京・竹橋で北白川宮能久親王騎馬像除幕式。
29(木)●銀貨での賠償金支払いを列国に拒否された清国が関税を金貨で要求し日英は受諾と新聞に。
30(金)●病床のトルストイ、「予の容態の記事は迷惑」と「モスクワ新聞」に投書、と新聞に。
31(土)●京都綿ネル会社職工二〇〇人、監督排斥スト。

ニュース・ファイル 1903

フォト+日録で再現する365日

東京にチンチン電車が走り始めたこの年、大阪にはスピードと料金勝負のポンポン船が登場、第五回内国勧業博で大成功をおさめた大阪が、近代産業都市として歩みだした年でもある。そして年末、満州(中国東北部)から撤兵しないロシアをにらんで、連合艦隊が編成される。

◀**頭山満ら対露同志会結成(8月9日)** 東京で神鞭知常・近衛篤麿らと対外硬派同志大会を開催し、会名を改称。清国への満州(中国東北部)還付を実行しないロシアの即時撤兵要求、対露開戦の世論を喚起した。

「頭山翁写真集」

▶**小杉天外(37)、「魔風恋風」発表(2月25日)**「読売新聞」に9月16日まで連載。流行し始めた女子大生の自転車を取り入れた恋愛物語は、彼を通俗流行作家に。写真は連載1回目の挿絵。

読売新聞社

◀**石川啄木(17)、失意の帰郷(2月27日)**前年10月、文学で身を立てるべく上京。しかし雑誌の編集部への就職もかなわず、岩手県渋民村に戻った。写真は3月、宝徳寺での啄木(左)。

西日本新聞社

▲**京都帝大に第二医科大学設立(3月25日)**福岡に設置の勅令で、県立福岡病院の施設が寄付され、4月1日開校。初年度は解剖学・内科学・外科学・眼科学の4講座。京都帝国大学福岡医科大学の名前に。

「東洋画報」

◀**川上一座、「オセロ」初演(2月11日)**東京・日本橋の明治座で、夫・音二郎のオセロ(室中将)を相手に、貞奴(写真)が妖艶なデスデモーナ(鞆音)を好演。「正劇」と称した翻訳劇は、快調なスタート。

▶**5代目尾上菊五郎死去(2月18日)**9代目市川団十郎、初代市川左団次とともに、団・菊・左と並称された名優だった。58歳。写真は臨終の菊五郎。家人が怒って原板を破壊したため、貴重な1枚となった。

明治36年 2月

1(日)●中央東線、笹子トンネルが完成し大月―初鹿野間開業(6月11日甲府まで開業)。
2(月)●三重県桑名の村民一〇〇〇人、水害原因の水路用柵の撤廃を求め郡役所に押しかける。
3(火)●災害地の地租、三年間延納を認める件公布。
4(水)●横須賀出身の青年、獄中の恩人に会うために盗みを働き、希望どおり逮捕される。
5(木)●岸和田紡績、泉州紡績買収を株主総会が承認。
6(金)●馬賊が満州鉄道付近に出没、列車や沿線で奪掠をほしいまま、と新聞に。
7(土)●山形市の選挙運動、投票売買で三人を起訴。
8(日)●片山潜、「北米最近の事情」を渡米協会で講演。
9(月)●大阪市、初の公営市電事業の許可を受ける。
10(火)●凶作で監獄囚人の食費が赤字、と新聞に。
11(水)●看護人・助産婦の組織「大日本看護人矯風会」、規約改正し新生発足。
12(木)●韓国政府、第一銀行の手形通用禁止取り消し。
13(金)●大阪の内国勧業博覧会に来日する清国人の阿片飲用者の厳重取締りを決める、と新聞に。
14(土)●米議会、労働部局のある商務省の設置を決議。
15(日)●初の教科書事件予審、知事二人ほか八人が有罪(勾引されたもの一一三七人、翌年七月終結)。
16(月)●露、韓国に京義鉄道敷設権を要求(18日拒否)。
17(火)●桂首相、露・仏・メキシコ三公使夫妻招待の官邸晩餐会を小松宮彰仁親王危篤で中止。
18(水)●嫁入り仕度に奉公先の衣類を盗んだ女性、東京・神楽坂で逮捕、検事局へ送付される。
19(木)●清国の漢口に入った鉄道枕木二五万本のうち一五万本が北海道から、と新聞に。
20(金)●文部省、教科書事件で勾引された教員は、無罪でも罷免の方針を内定。
21(土)●下村観山、日本画家では初の文部省留学生として渡英(12月10日、帰国)。
22(日)●政友会の伊藤博文、桂首相らと会い政府の財政計画を承認(後に総裁専断の非難起こる)。
23(月)●埼玉県戸田村の村会議員ら五人、風水害による種穀料受け取りの詐欺により勾引、護送。
24(火)●身売り金着服の女衒夫婦を逮捕、と新聞に。
25(水)●小杉天外、読売新聞に「魔風恋風」連載開始。
26(木)●英国の上院議員、外国人労働者の流入増加で移民制限立法を要求。
27(金)●警視庁、新聞号外乱発の取締り規則を公布。
28(土)●埼玉県の利根川ぞいの村民三〇〇人、堤防工事速成の請願協議を警官に解散させられる。

証言・あの日この日
田山花袋(31)

5月10日(日) 〈私は其頃は博文館に入つて、『太平洋』を編輯してゐた。その日は雨が降つてゐたが、電話でそれを知らされると、もうゐても立つてもゐられなかつた。すぐに行つて取つて来なければ承知が出来なかつた。しかし、それにつけては、銭がない。受取つて来る銭がない。七八円の金だが、それがない。さうかと言つて、月末まで待つてゐる気にはなれない。仕方がないから、出版部へ行つて/十円前借をした。そして降り頻る雨をついて丸善へと出かけた〉(田山花袋『東京の三十年』)

この日、花袋が買ったのはモーパッサンの12冊の短篇集だった。花袋は、この頃、丸善に頻繁に出入りし、外国文学を乱読していた。こうした外国文学の乱読の後に書いた最初の私小説「蒲団」は、その後の日本の近代文学の流れを決定づけることになる。(山崎行太郎)

◀**久邇宮良子、誕生(3月6日)**久邇宮邦彦の第1王女として誕生。母・俔子は旧薩摩藩主・島津家の出身。後に皇太子裕仁(昭和天皇)と結婚、現在の皇太后。写真は生後7ヵ月頃。

▼**徳富蘆花(34)、『黒潮』第1編刊行(3月)**『不如帰』で作家的自立をはたした蘆花(右)は、他方では内的な解脱の道を模索。兄・蘇峰(左)との関係をあらためようと、黒潮社を設立。野心作を自費出版した。

▶**大阪に「ポンポン船」誕生(3月7日)**勧業博の足として、市長の提案で大阪巡航合資会社を作り、開会から1週間遅れて開業。日本橋、戎橋、湊町、新町橋間を1銭〜2銭で巡航、人力車夫が抵抗した。

CORBIS-BETTMANN/PPS

◀**米国で新移民法施行(3月3日)**無制限に移民を受け入れてきた米国が、1875年以来、次第に入国を制限、排斥対象を拡大。無政府主義者の入国が禁止された。写真は移民局のおかれたエリス島で。

日本生命提供

▲▶**日本生命、社長交代(3月23日)**創業社長・鴻池善右衛門(写真)が、本家改革に専念するため退任、副社長・片岡直温が継いだ。上は、辞意を記した鴻池の片岡宛書簡。

明治36年 3月

1(日)●第八回総選挙(政友会一七五で大勢変化なし)。
●大阪で第五回内国勧業博覧会を開催(新製品の冷蔵庫に人気。会期中の入場五三〇万人)。
2(月)●フィリピンで初の国勢調査。
3(火)●日本赤十字社新総裁、閑院宮載仁親王に決定。
●米国で新移民法、施行。
4(水)●カナダの農相来日、貿易拡張と博覧会見物。
5(木)●独とトルコ、バグダッド鉄道建設新協定締結(英・仏・露の強硬な反対で工事難航)。
6(金)●東京盲唖学校に初の教員練習科を設置。
7(土)●東京・霊岸島に低所得層の貧民学校、開校式。
●英語演説会、東京で津田梅子など講演。
8(日)●東京・神田の万世橋、開通式に五〇〇人。
9(月)●高等女学校の各教科の教授要目を制定。
10(火)●海軍大演習、韓国近海の高麗洋で開始。
11(水)●日本郵船、東北凶作地への物品輸送と凶作地からの輸送を半額に割り引くことを決定。
12(木)●大谷光瑞、中央アジア探検から帰国。
13(金)●財源のひとつ外国人観光客、前年は一万八八五五人、と新聞に。
14(土)●英、潜水艦など海軍増強計画を発表。
15(日)●英、北部ナイジェリアの叛乱を平定。
16(月)●山陽鉄道、四国の鉄道と連絡する宇品―高浜航路開設(18日尾道―多度津、岡山―高松も)。
17(火)●警視庁、案内業者(通訳)取締規則を制定。
18(水)●仏、カトリックの聖職位階を無効と決定。
19(木)●昨冬から不漁続きの房総・九十九里浜近海に鰯の大群、と新聞に。
20(金)●監獄を司法大臣管理下に一本化の官制公布。
21(土)●南海鉄道、難波―和歌山間が全通。
22(日)●コロンビアのガレラ・デ・サンバ火山が噴火。
23(月)●ドイツ議会、児童の労働禁止を家内工業にも拡大する児童労働法を可決。
24(火)●カナダ在住邦人、四七三八人、と新聞に。
25(水)●京都帝大の第二医科大学を福岡市に設立。
26(木)●伊沢修二、東京に楽石社を設立し、吃音矯正・唖者の発音指導に着手。
27(金)●専門学校令を公布。
28(土)●札幌麦酒、東京・吾妻橋にビールガーデン開く。
29(日)●福井県敦賀で火災、寺院など一七二戸焼失。
30(月)●大阪で開催中の博覧会、四月一日から水曜・土曜・祭日は夜間も開場、と新聞に。
31(火)●農商務省、産業別の労働状態を詳細にまとめた調査報告書『職工事情』を刊行。

▲ピュリッツァー、巨額の寄付(4月10日)米新聞王が新聞記者育成へ200万ドルを寄付。このうち50万ドルを基金とし、ピュリッツァー賞が設立された。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▼夏目漱石、一高・帝大講師に(4月)1月、英国から帰国、東京・千駄木に居を移し、新しい勤務に備えた。写真は明治39年の英文科卒業記念、前列左から二人目。

文殊社提供

▼大阪麦酒会社が東京進出(4月)花見の名所、東京・向島の隅田川堤に、よしず張りのビヤガーデンを開店。朝日麦酒と勧業博記念で発売したニシキ麦酒を大宣伝。

▲露軍、満州撤兵せず(4月18日)前年の協定を反故にし、逆に兵力を増強、既得権益を認めさせる新たな要求を清国に提示。日本は清国に拒絶するよう勧告。

毎日新聞社

呉市企画部海事博物館推進室提供

▲軍艦「操江」、根室沖で沈没(5月22日)日清戦争で拿捕した清国砲艦を、日本海軍式に換装。千島海域測量中に座礁し、風雪が重なり、乗員全員が死亡。

◀京都市記念動物園開園(4月1日)皇太子(後の大正天皇)の結婚を記念し、市民の寄付と市費で岡崎に建設。周辺は平安神宮創立、内国勧業博開催で、一大公園になりつつあった。写真は創立当時の正門。

京都府立総合資料館提供

明治36年4月

1(水)●東京と大阪に中央郵便局・電話局を設置。
2(木)●翌日の労働者懇親会演説会禁止に抗議の演説会、開会直前にまた警察から解散命令。
3(金)●羽仁もと子、雑誌「家庭之友」を創刊。
4(土)●日本内科学会、東京の一橋で発会式。
5(日)●近頃、台湾では学士会や体育会、商工相談会など団体組織作りが流行、と新聞に。
6(月)●大阪で社会主義協会の大会を開催。
7(火)●東京市会の三十間堀埋め立て否決で、再否決の時は内務省が命令で遂行させる、と新聞に。
8(水)●黒岩涙香・幸徳秋水・内村鑑三・堺利彦ら「万朝報」に反戦論を執筆。
●露、期限が来た第二次満州撤兵を履行せず。
9(木)●横浜輸出工芸品共進会、全国会開催を決議。
10(金)●箱屋殺しの花井お梅、一六年間の刑期を終えて東京の市谷監獄を出所。
11(土)●大阪市南区古俵町で落雷のため二人が即死。
12(日)●観艦式での衆院議員に対する海軍の待遇は侮辱的で艦をすぐ降りたものが多い、と新聞に。
13(月)●小学校令を一部改正、国定教科書制度となる。
14(火)●福井県武生で大火、一〇五六戸を焼失。
15(水)●陸軍火薬研究所創設の条例公布。
16(木)●福島紡績、福山紡績の買収を株主総会で承認。
17(金)●北海道小樽で大火、一一〇〇戸を延焼。
18(土)●露、清に七項目の満州撤兵条件を提示(27日、清は拒絶し撤兵履行を要請)。
19(日)●露で革命運動参加のユダヤ人迫害事件。政府は偶発事件と発表(多数のユダヤ人、米国へ)。
20(月)●小村寿太郎外相、清に露の要求拒絶を勧告。
21(火)●桂・伊藤・小村・山県、京都で露対策を協議。
22(水)●金沢地裁、政教新聞記者の恐喝取材事件に対し、禁固三月、罰金五円、監視六月の判決。
23(木)●初の全国銀行者大会、大阪で開催。
24(金)●日本と清国、天津居留地拡張取極書に調印。
25(土)●沖縄県の鳥島が噴火、五月まで。
26(日)●露が上海で七〇〇トンのビスケットを注文し、戦争準備ではないかとの評判、と新聞に。
27(月)●米連邦最高裁判所、黒人の投票権を認めないアラバマ州法を支持の判決。
28(火)●警視庁、畜犬税の徴収など畜犬取締規則公布。
●桂首相、海軍拡張費捻出の妥協案を発表。
29(水)●三井物産、門司に船舶部を設置。
30(木)●独、疾病保険法を改正し病気の労働者への給付期間を一三週から二六週に延長。

「イリュストラシオン」

▲河口慧海、秘境・チベットから帰国(5月20日)仏教経典の原点を求めて6年前に出発、インド・ネパールでチベット語を学び、鎖国の国へ単身潜入。写真は、晩年の慧海。

HULTON GETTY／オリオン・プレス

▲英国王・エドワード7世、パリ訪問(5月1日)ドイツの脅威と日露対立が、英国の「栄光ある孤立」を放棄させ、前年には日英同盟に調印、フランスにも接近した。翌年、英仏協商に結実。

▶パリ—マドリード間自動車レース(5月25日)30万人余の観衆の目の前で、ルノー兄弟の長兄・マルセル(写真の車)をはじめ、死傷事故が多発。以後、公道での都市間レースは禁止に。

「イリュストラシオン」

▲ロシアのキシニョフでユダヤ人大虐殺(4月19日)革命運動に参加のユダヤ人に対して、皇帝に忠誠を尽くす農民が反発した偶発事件と政府は発表。ユダヤ人多数が、米国亡命。写真は虐殺の犠牲者。

▶神戸高等商業学校開校(5月15日)開校予定を早めて、授業開始。開校式は10月に挙行した。貿易商人の育成をめざし、予科を2部制に、高等小卒業生にも便宜をはかった。写真は第1期卒業生。

▶京都ハリストス正教会建立(5月)柳馬場二条に、東京のニコライ堂を思わせるビザンチン建築が登場。日本正教会の京都の聖堂も、翌年の開戦でロシアの援助を失い、信者も減少、痛手を受けた。

明治36年5月

1(金)●英国王、パリ訪問。英仏友好の気運高まる。
2(土)●東京・浅草で狂犬狩り、四人を咬み重傷を負わせた犬を警部三人巡査七人で追い詰め撲殺。
3(日)●アラスカの鮭漁が増大し、缶詰業の人夫は清国人だったが最近は白人も多い、と新聞に。
4(月)●足尾銅山鉱毒被害者代表三〇人、上京して桂首相や一木法制局長官に面会を請う。
5(火)●大日本国民中学会、『正則中学講義録』発行。
6(水)●前年の米収穫高は三六九九万石、と新聞に。
7(木)●英・独・伊三国、関税紛争終結条約に調印。
8(金)●第一八特別議会召集(12日~6月4日)。
9(土)●米国務長官、対露問題で日英米連合の運動は必要ないと駐米日本公使に言明。
10(日)●東宮慶事記念美術館、東京・上野で立礎式。
11(月)●大阪で開催の全国慈善大会、全国慈善同盟会(後の中央社会事業協会)の設立を可決。
12(火)●大山巌参謀総長、露と即刻開戦の意見書提出。
13(水)●貴族院の全院委員長選挙で無効一三票、家達・慶喜の二人の「徳川公爵」がいたため。
14(木)●長崎三菱造船所立神工場職工九〇〇人、賃上げ要求スト(17日、治警法違反で六人勾引)。
15(金)●英外相、ペルシャ湾の英国権益の擁護を声明。
16(土)●初の米横断オートバイ出発(約二ヵ月で成功)。
17(日)●露、旅順で一万四〇〇〇の兵力増強(砲台築造や艦隊集結演習、20日清との条約破棄決定)。
18(月)●日清郵便仮約定、調印。
19(火)●衆議院、増徴の地租条例改正案否決で混乱。
20(水)●河口慧海、チベット探検から帰国。
21(木)●大審院、盗電は窃盗罪として有罪判決。
22(金)●第一高等学校生の藤村操、「巌頭之感」の一文を残し、日光の華厳滝に投身自殺。
●軍艦「操江」、測量中に根室沖で沈没、乗員全員が死亡。
23(土)●埼玉県本庄駅の石灰一七〇俵、雨で発火焼失。
24(日)●初のゴルフ場「神戸ゴルフ倶楽部」、開場式。
25(月)●パリ—マドリード間自動車レース開催。
26(火)●海事協会、船舶検査部と海難救助部設置決定。
27(水)●衆議院、内閣弾劾案を一二八対一二三で否決。
28(木)●トルコで大地震、約二〇〇〇人が死亡。
29(金)●衆議院、教科書疑獄事件の大臣責任案を修正して可決(7月17日、菊池大麓文相辞任)。
30(土)●農商務省、育牛結核病予防法施行規則を公布。
31(日)●米国中西部で大洪水、死者約二〇〇人、流失家屋二万五〇〇〇戸。

▲**尾崎行雄（44）、東京市長に（6月29日）**明治45年6月まで在任。3年前、みずから創立委員となった立憲政友会を、総裁・伊藤博文が単独で桂内閣と妥協したため、脱党していた。

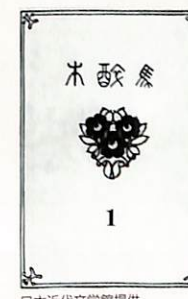
▶**日比谷公園オープン（6月1日）**東京市の中心部に、日本初のドイツ風庭園が登場。広い道路に西洋花壇、大噴水、照明完備というモダンさ。市民の人気は上々だった。

▼**内村鑑三、非戦論展開（6月）**雑誌「聖書之研究」を通じ、平和思想から日露非開戦を主張。「万朝報」でも、幸徳秋水らと戦争反対を唱えた。写真は東京・角筈の自邸前、後列中央。

▲**露陸相のクロパトキン来日（6月12日）**開戦危機の渦中、勧業博覧会を名目に、旅順から軍艦で来日。桂首相らと会談の後、関西入り。そして28日、突然、帰国。写真前列中央。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▲**フォード社誕生（6月16日）**米・ミシガン州に会社設立、「モデルA」（写真）を発表。この時、ヘンリーは25.5パーセントの株主だったが、1919年には全株式を取得。

日本近代文学館提供

▶**伊藤左千夫（左）、「馬酔木」創刊（6月）**正岡子規を中心とする根岸短歌会の機関誌として、子規の没後、長塚節（右）らと創刊。写生論と万葉研究が注目された。写真は2年後。

明治36年6月

1（月）●東京の日比谷公園、新造営完成し開園式。
2（火）●大蔵省発表で前年の葉タバコ専売の純益は一二四一万六六七二円、と新聞に。
●関西美術院の前身、洋画研究所を京都・聖護院町の浅井忠宅に創設。
3（水）●兵庫県の明石女子師範学校、開校。
4（木）●機関車の火の粉が原因で、東京・岩淵町の二百十余戸を焼失。
5（金）●文部省、東京慈恵医院医学校を初の私立専門学校として認可。
●東京市が初の『東京市統計年表』を刊行。
6（土）●片岡健吉ら二十数人、政友会を脱会。
7（日）●盲人医学協会、東京・築地で発会式を挙行。
8（月）●足尾銅山鉱毒問題解決期成同志会、東京・芝で解決意見発表演説会を開催。
9（火）●茨城の実母殺し女囚、市谷監獄で死刑執行。
10（水）●東京帝大法科の戸水寛人ら七博士、対露軟弱政策反対の建議書を提出（七博士事件）。
11（木）●奥羽南線、舟形―新庄間が開通式。
12（金）●露・クロパトキン陸相一行、来日（28日離日）。
●大阪の人力車夫、巡航船運航に反対し集会。
13（土）●常陸山と二代目梅ケ谷、横綱に昇進。
14（日）●第一回女子教育講話会、東京・神田で開催。
15（月）●東京市長、辞表提出（29日、尾崎行雄に）。
16（火）●米国・フォード社、一二人の株主により設立。
17（水）●粗製樟脳・樟脳油専売法公布（10月1日施行）。
18（木）●内田康哉駐清公使、奉天開放を清国に要請。
19（金）●スイス、ムッソリーニを警察監視のリストに。
20（土）●堺・桑名・福井・太田・石岡の各商業会議所、法定手続きをしなかったため解散告示。
21（日）●東京市電、有楽町で起工式。
22（月）●大山参謀総長、満韓問題意見書を政府に提出。
23（火）●御前会議、満韓問題で日露交渉開始と協定案を決定（8月12日、協定案を露に提出）。
●東京の隅田川汽船水夫二六人、賃上げスト。
24（水）●桂首相、山県・伊藤両元老に辞意表明し首相就任を要請（7月1日辞表提出、2日却下）。
25（木）●品川白煉瓦、株式会社に改組して設立。
26（金）●初の国産駆逐艦、「春雨」、横須賀で竣工。
27（土）●東京市、日曜祭日の校庭開放を各区に訓令。
28（日）●スイス、ユングフラウ鉄道開通。
29（月）●清国の「蘇報」、反政府的論文で発行停止、章炳麟ら投獄される（蘇報事件）。
30（火）●初の公立専門学校、京都府立医専が認可。

「現場」を歩く 六甲

日本初の「神戸ゴルフ倶楽部」に今も残る英国式〝伝統と格式〟

山本徹美

▲市街地から現在なら車で約20分だが、開設当初は人夫5人がかりの駕籠を使って、半日以上かかったという。それでも多くの欧米人がプレーするため来場したようだ。　但馬一憲

明治三六年五月二四日午前一〇時、神戸市郊外にそびえる六甲山の頂で、「神戸ゴルフ倶楽部」の発会式が行われた。わが国初の、ゴルフ場とクラブの誕生である。

式には会員約五〇人と、服部一三兵庫県知事のほか、神戸市長、英国領事なども参列。神戸の英字新聞「Kobe Herald」が、その様子を伝えている。

「服部県知事が一番ティーに進み出て、処女ドライブを行った。A・H・グルーム氏はその球を永く倶楽部に保存して、記念とするむね述べ、式を終えた」

神戸ゴルフ倶楽部を創設したイギリス人、グルームは、明治元年、二二歳の時に貿易商として来日。神戸・弁天浜に会社を設立し、茶、生糸などの商品を扱うかたわらホテルも経営、成功をおさめた。明治二八年六月、六甲山三国池一帯約一万坪を、所有する自治体から借り受けて別荘を建て、入植者第一号となる。

「ゴルフでもやってみようじゃないか」と、来訪した友人たちが提案。ゴルフ経験のないグルームは、友人の助言に従いコースを作る。『神戸ゴルフ倶楽部史』に彼の末娘・岸りうが寄稿している。

「当時の六甲山上は岩がゴロゴロしており、草や灌木が生えていて、ゴルフ場にするには、大変なことだったそうです」

芝が根づかず、「グリーン」には砂が敷かれ、サンドグリーンと呼ばれた。

霧中でのゴルフが名物

神戸ゴルフ倶楽部を訪ねてみた。折からの雨で、六甲山頂は濃霧に包まれている。高橋順男支配人補佐が教えてくれた。

「霧中でのゴルフは昔からここの名物です。コースを熟知したキャディーさんがさす方向に打ち、ポトンと音がしたらフェアウェイ、ガサッといったらラフです」

サンドグリーンは、昭和五年から耐寒性のある芝に張り替えられた。

クラブハウスの壁面には、明治四〇年の日本アマチュア選手権第一回大会から第三二回までの、優勝者名を刻したボードがある。わが国ゴルフの黎明期に、ここがメインコースだった証である。

▲友人とプレーする創設者のグルーム（右から二人目）。　日本ゴルフ協会提供

昭和二七年からは、創始者に敬意を表し、グルームカップが開催されている。

「グルームさんの意志を踏襲し、ゴルフを通して、人と人との触れ合いを深めることを第一義においています。ヤーデージ標識がないのも、基本的にメンバーがご案内するのだから不要、という発想に基づきます」（前出・高橋氏）

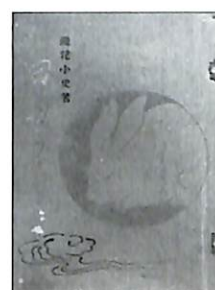
同倶楽部の岡橋泰一郎理事長（八一）は、日本ゴルフ協会の規則委員長も兼任している。ここではパー61のローカルルールが守られ、夫人や娘さんを同伴してプレーを楽しむ会員が多いという。昭和七年建造のクラブハウス内には、松の油の匂いが漂い、ラタンのテーブルと椅子が整然と並んでいる。大騒ぎする雰囲気ではない。グルームの導入した英国式伝統と格式は、六甲に根づいていた。

ベストセラー

ゾラに衝撃を受けた荷風が「女優ナナ」「大洪水」翻訳！

フランスの作家、エミール・ゾラの写実小説には、日本の多くの作家が衝撃を受けた。フランスにあこがれ、後に留学する永井荷風もその一人だった。

この年『十九世紀文学叢書』というシリーズに、荷風がすでに翻訳していた「女優ナナ」が収録されることになった。しかし、それは「極めて荒き仕組のみを書綴らんと企てた」翻訳で、荷風としても手放しで喜ぶわけにはいかなかった。そこで荷風はゾラの優れた初期短編「大洪水」の翻訳を、あわせて掲載することにした。「鋭い物の響が他の方から聞え出した、かと思ふと、彼の逃げて行つた人達の後から、或は白楊樹の並んだ幹の間から、或は丈の高い草の上から、齊しく灰色して黄色の斑点ある怪物が、私達の方へ目掛けて押し寄せて来た」といった、緊迫感のある翻訳だった。

また、この頃にはすでに作家としての地歩を固めつつあった泉鏡花が、短編集『田毎かゞみ』を上梓して、その独特のファンタジー世界を繰り広げてみせた。口絵に鏑木清方の美しい版画が折りこまれており、その後の鏡花本のありようを予感させた。口絵の題材となった短編は「さ、蟹」で、一流の彫刻師が、その出来に不満を残した作り物の蟹が、当の彫刻師が亡くなった晩に動き出し、みずから柱にぶつかって砕けるという話。一芸に秀でた人をめぐる怪異譚という、鏡花ならではの作品だった。

一方、日露間の雲行きが怪しくなっていく中、「万朝報」が非戦論から主戦論へ大きく編集方針を変えたのに反発して辞職した、堺利彦と幸徳秋水が一一月、週刊「平民新聞」の発行に踏み切った。その「宣言」にいわく「吾人は人類の自由を完からしめんが為めに平民主義を奉持す、故に門閥の高下、財産の多寡、男女の差別より生ずる階級を打破し、一切の圧政束縛を除去せんことを欲す」と。そしてこれを実現するのに暴力に訴えることは「絶対に之を非認す」と高らかに宣言した。

▲『女優ナナ』（新声社、35銭）

▲「平民新聞」創刊号（平民社、3銭5厘）

▶『田毎かゞみ』（春陽堂、50銭）

日本近代文学館提供（3点とも）

スターと名場面

ヨーロッパ帰りの川上貞奴「オセロ」で本邦デビュー！

新しい芝居作りをめざす川上音二郎と海外に渡り、ヨーロッパで初めて舞台に立ち、女優としてデビューした川上貞奴は、「マダム・サダヤッコ」の名で大いなる人気を得て帰国した。そして明治三六年二月、明治座で初演された川上音二郎一座の「オセロ」で本邦デビューをはたし、一一月には本郷座公演の「ハムレット」で、オフィーリアにあたる織江を演じるなどして、それまで、もっぱら女形が作りだしてきた、舞台上の女性イメージを根底からくつがえす新しい“女優”として世間の注目をあびた。

一方、新派の喜多村緑郎が大阪の朝日座などをホームグラウンドにした成美団の看板役者として、歌舞伎に準じた女形の演技で名をはせた。「不如帰」の浪子や「滝の白糸」のヒロイン・白糸はその当たり役で、やがて「滝の白糸」の原作者・泉鏡花とも昵懇の間柄となり、新派の重鎮となっていった。

映画の方では、いろいろな仕掛けもので客を集めていた浅草の電気館が、映画の専門館第一号となった。それまではパノラマなどの仕掛けもので説明役をしていた染井三郎が、そのまま映画の弁士に転じて人気を集め、やがて活動写真界の押しも押されもせぬスターになり、後に「アントニーとクレオパトラ」などの名活弁を残したのである。

▲川上一座の「ハムレット」。「イリュストラシオン」

▶「不如帰」で浪子を演じた喜多村緑郎。

早稲田大学演劇博物館蔵

▶活動写真の弁士としてスター扱いを受けた染井三郎。

モノ語り'03

“便利な生活”をめざして「ライオン固煉歯磨」「蝋燭ランプ」「爪革つきの足駄」発売！

◀**着々と進歩していった電話機** この年、英国製共電式交換機が京都局に導入され、同時に「グースネック共電式壁掛電話機」が購入・採用された。共電式は、電源を局内に集中し交換作業を効率的にしただけでなく、利用者には受話器を取るだけで局を呼び出せる利便性をもたらした。「グースネック」という名称は、腕金の先端に送話器をつけた形がガチョウの首に似ているところから生まれた。
逓信総合博物館提供

▲**練り歯磨きの品質がアップ** 明治29年からすでに歯磨きを製造・販売していた小林富次郎商店（現・ライオン）は、この年、「ライオン固煉歯磨」を発売した。特殊な薬品を配合して適度な硬さを持たせたもので、香りが発散する心配がないうえ、口の中で溶けやすく、清浄効果も大きかった。発売当初は陶製瓶入りだったが、すぐにニッケル缶入りも発売。写真は、明治36年のニッケル缶入りのもの。
ライオン史料センター蔵／奥村健太郎

◀**アマチュア用のカメラが売り出された** 小西本店（現・コニカ）は、この年、名刺判の乾板を使用する木製革張りのボックス型カメラ「チェリー手提暗函（てさげあんばこ）」を発売した。国産のアマチュア向けカメラとして、最初に量産されたもので、固定焦点、固定絞りの単レンズつき。乾板を6枚重ねてカメラ内のガイドレールに差しこみ、1枚撮影するごとに、乾板を順次前に倒していく構造だった。価格は2円30銭。明治37年には、少し大判の手札判のチェリーも発売された。
日本カメラ博物館蔵／大畑俊男

▲**下駄にも雨対策がほどこされた** この頃は、雨が降れば、いたるところにぬかるみができて歩きにくく、足も汚れた。そこで考案・発売されたのが「爪革つきの足駄」で、前面には防水のための革が張られ、足は差し歯式で高く、ぬかるみを歩くには有効だった。関西では「タカゲタ」と言われていた。 日本はきもの博物館蔵／石井美雄

日本のあかり博物館蔵／江頭徹

▲**蝋燭もまだ十分に明るかった** この頃の照明具としては石油ランプが大きな位置を占めていたが、石油よりは安価な蝋燭を使う「蝋燭ランプ」も有力な照明具だった。写真のようなタイプのほかに、提灯型のものなどいろいろあったが、どれも風の影響を避けるためと安全のためにガラスのホヤがついていた。ガラスが珍しかったためもあって、「ハイカラ提灯」などとも呼ばれていた。

◀**ディスク・レコードの時代が見えた** 明治20年にディスクタイプのレコード盤を発明したエミール・バーリナーが、明治35年にアメリカでビクター蓄音機を設立、その「ビクター・レコード」が日本にも入ってきた。まだ片面のみの録音で、裏面にはイギリスのグラモフォンから権利を譲り受けた“ヒズ・マスターズ・ボイス”の絵が彫られていた。
梅屋蔵／江頭徹（左4点とも）

その名は「ニッパー」

イギリスのレコード会社・グラモフォンが、画家のフランシス・バロードから獲得し、会社のトレードマークにした“HIS MASTER'S VOICE”は、すでに100年近い歴史を持つ、世界中で最もよく知られる犬となった。ニックネームは「ニッパー」。この絵を描いたバロードの、亡くなったお兄さんが飼っていた犬である。ニッパーのファンは多く、レコードのみならず、販売促進用のグッズを集めるコレクターも少なくない。レコード・アンティークショップ「梅屋」の梅田さんもその一人で、これらはそのコレクションの一部である。

人物クローズアップ

山本権兵衛（五一）

連合艦隊を作り、東郷を抜擢！ 日露戦争勝利への布石を完了

明治三六年一二月二八日は、日本の海軍史の中で特に記憶されるべき重要な日である。その理由は、この日に決定された二つの事柄にある。ひとつは、戦時大本営条例の改正によって、海軍軍令部が陸軍参謀本部から完全独立し、海軍作戦の自主性を確立したこと。もうひとつは、従来、海軍にはひとつの艦隊しかなかったのが、戦艦六隻の第一艦隊と、一等巡洋艦六隻の第二艦隊からなる連合艦隊に再編されたことである。これによって、海軍大臣・山本権兵衛（五一）が推進する海軍の整備計画は当面の目標を達成し、大国・ロシアに対抗しうるまでの形が整えられたのである。

明治三一年、西郷従道（当時・五五歳）海相の後を受け、第二次山県有朋内閣の海相に就任した山本は、みずからの手で海軍の大整備に乗り出す。その最大の課題は日清戦争後の海軍の経営にあった。すなわち、前記した二つの課題である。

さらに山本が推進したのは人材の抜擢である。その最たるものが、この年一二月二八日に連合艦隊司令長官に、退役寸前であった東郷平八郎中将（五六）を抜擢したことで、山本はその根拠に、東郷の資質に加えて東郷の持つ運の強さを買ったという。こうした山本の施策は、日露戦争を勝利に導く大きな力となっただけでなく、日本の海軍を世界レベルにまで押し上げる原動力となった。

山本権兵衛は、嘉永五年（一八五二）一〇月一五日、現在の鹿児島市加治屋町生まれ。名は「ごんのひょうえ」とも。戦闘への参加は、一五歳の時に鳥羽・伏見の戦いに参戦したのが最初である。明治三年に海軍兵学寮（後の海軍兵学校）に入学、第二期の生徒になった。山本の見聞を大いに広めたのが、明治一〇年から一年半にわたるドイツ軍艦での遠航研修だった。さらに明治二〇年の、一年間の欧米視察が山本の海軍に対する考え方を決定づけた。

明治二四年六月、抜擢されて海軍大臣官房主事に就任。以降、約一五年間にわたり日本の海軍を主宰することになる。

政治学者の池田清氏は、山本を次のように語る。

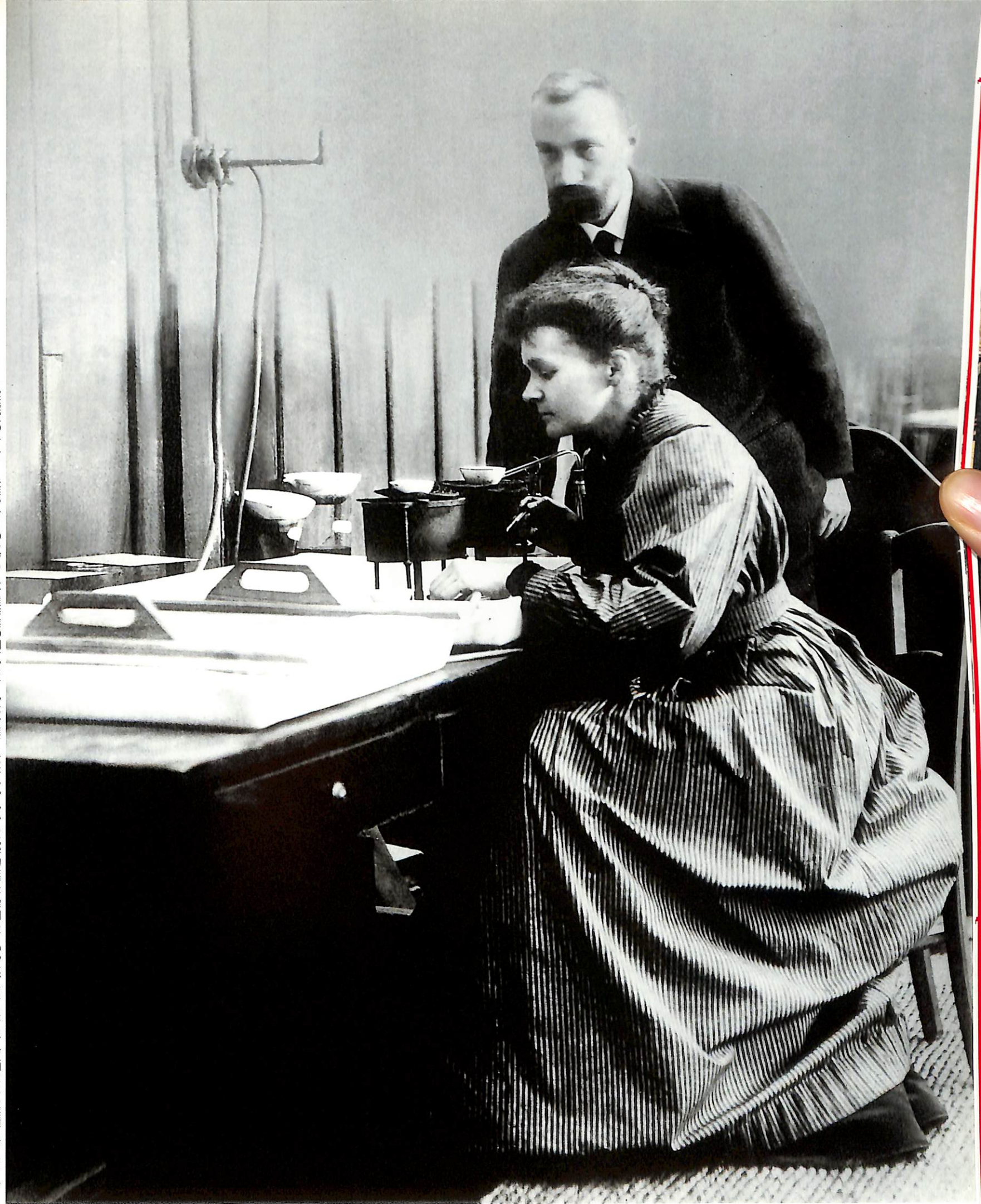
「日本の海軍は勝海舟が生み、山本が育てたものです。薩摩の海軍を日本の海軍に育てあげたばかりでなく、人事のたくみさはずば抜けていて、うだつのあがらなかった東郷を抜擢した眼の確かさは、資質としか言いようがないでしょう」

日露戦争後、海相を退いた山本は、桂太郎の後を受けて、大正二年二月、首相に就任。在任中、元老・山県の圧力をはねのけて、軍部大臣（陸相と海相）の資格を現役武官（大将および中将）から予備役（退役した大将および中将）にまで拡大する施策を断行した。これは、政治に対する軍部の介入を防ぐ画期的なものだったが、山県の策謀で海軍の汚職事件「シーメンス事件」の責任を問われ、翌三年四月に総辞職する。

首相としての山本は不運だった。大正一二年、関東大震災直後に第二次山本内閣を組閣したが、一二月に摂政宮（後の昭和天皇）が狙撃される「虎ノ門事件」が起きて総辞職。わずか四ヵ月の短命内閣に終わったのである。

以降、昭和に入ると、山本は政治から引退。昭和八年一二月九日、八一歳で没した。

▲明治33年、海軍大臣となって3年目の中将・山本権兵衛。その後、35年男爵、37年大将、40年伯爵となる。

▲山本（前列右から5人目）は、明治40年、伏見宮貞愛親王（前列左から5人目）に随行してイギリスを訪問、日英同盟協約改訂にともなう第2次軍事協定に調印する。前列中央はイギリス国王・エドワード7世。 山本衛（2点とも）

▶実験室のキュリー夫妻。マリのラジウム分離作業の間、ピエールは分離されたサンプルから化学的性質を解明していった。まさに、二人三脚による業績と言えよう。

ROGER・VIOLLET／ユニフォトプレス

決定的瞬間

最悪の条件下で四年の研究 ラジウム発見のキュリー夫妻 ノーベル物理学賞に輝く！

この写真に写っているマリ・キュリーは三五歳前後だが、ひどく老けて見える。毎年赤字となる家計と苦闘しながら、二人の女の子を育て、しかも四年の歳月をついやして、純粋なラジウムの分離という困難な仕事をなしとげたのだ。こうした苦労が彼女から若さを奪っていったのだろう。夫のピエールも、手が放射能によって痛めつけられ、しくしくと痛んでいた。二人は放射能の研究に没頭し、数多くの成果をあげ、この年、一九〇三年に第三回ノーベル物理学賞を受賞するが、その背後には栄光とは裏腹な、質素で単調な研究生活の積み重ねがあった。

マリ・キュリー（旧姓＝マリア・スクロドフスカ）は、一八六七年一一月七日、ポーランドで生まれ、パリ大学に留学して数学と物理を勉強する。そんなマリがパリ生まれで八歳年上の真面目な物理学者、ピエールと結婚したのは一八九五年である。この年は、原子力時代の始まりとも言われる年で、ドイツの科学者、ウィルヘルム・レントゲンが陰極線管から発生するX線を発見した年であった。

X線の発見に触発されたフランスの物理学者、ベクレルは、ウランという金属元素がそれ自体で放射線を出していることをつきとめる。ちょうどこの頃、博士論文のテーマを探していたマリは、「ウラン以外の金属にも放射線を発するものがあるのではないか」と考えた。こうして一八九七年からマリとピエールは、放射線を自然に出す新元素の探求を始め、翌年、ピッチ・ブレンド（瀝青ウラン鉱）の中にウランよりも強い放射線を放つ物質があることを見つけだした。それはポロニウムとラジウムであった。

しかし、ポロニウムもラジウムも、その物質を分離して、ある一定量取り出さなくては、存在を証明したことにならない。二人は、オーストリアのヨアヒムスタール鉱山でウランを取りのぞいたピッチ・ブレンドの残りかすが松林に捨てられているのを知り、ウィーン科学アカデミーの仲介で、無料で提供してもらうことにした。作業を行う場所は、ピエールがつとめる物理化学学校の解剖室を使用する。そこはジャガイモの貯蔵小屋のようで、「屋根はガラス張りだったが、雨を防ぐには十分でなく、夏には、むせ返るように暑かった」とマリは回想している。

最悪の条件の中で、マリは困難な作業を始めた。すりつぶし、鍋で熱し、溶かし、沈殿させ、漉し分け、結晶を作り……。しかし予想に反して、ラジウムの含有量は一〇〇〇万分の一しかなく、約八トンものピッチ・ブレンドの残りかすを化学処理しなければならなかった。そして、ついに一九〇二年に、四年の歳月をかけて〇・一グラムの塩化ラジウムの抽出に成功した。この間に、ラジウムが「人体に強い化学作用を持っていること」「ラジウム・エマナチオンというガスが出ていて、これが元素ラドンに変化していること」など、二人は重要な発見をしている。こうした発見やその過程における問題点の指摘は、後に二〇世紀の物理学を飛躍的に発展させるきっかけとなる。

キュリー夫妻の地道な努力は、ノーベル物理学賞受賞という形で結実した。マリはピエールが交通事故で一九〇六年に死亡した後も研究を続け、一九一〇年にラジウムを金属として抽出することに成功、一九一一年にノーベル化学賞をも受賞する。

マリは、二度もノーベル賞を受賞するという快挙をなしとげたが、彼女が六六歳で死亡した時、その死因は放射線障害であったと言われている。

▼マリが1934年に倒れるまで使った実験室。彼女の研究は長女のイレーヌとその夫、フレデリック・ジョリオに引き継がれ、二人は翌年のノーベル化学賞を受賞する。

J.E.Pasquier／Rapho／PPS

美の出会い

京都に洋画の拠点ができた！ “洋行帰り”浅井忠の研究所に梅原や安井などの俊才が参加

明治三六年六月二日、洋画家の浅井忠（ちゅう）（四六）が、京都聖護院（しょうごいん）町三六にある自宅に洋画研究所を開いた。この家はもとは呉服店の白木（しろき）屋の別荘で、長い間空き家になっていたため、お化けが出るなどと噂されるほど荒れはてていた。浅井はこの庭の大きな池や、老大木ほかさまざまな植物が生い茂っているのを気に入って、借り受けていたのである。

浅井は、この敷地の門を入ったところにある長屋に手を加えて研究所とした。ここには梅原龍三郎や安井曾太郎（そうたろう）、黒田重太郎、斎藤與里（より）ら、後の日本の洋画界を担うことになる一〇代の若者たちが集まってきた。浅井の指導法について、生徒たちの証言が残されている。

「浅井の指導は懇切で、平易な言葉で各各の作品の急所を衝（つ）くので、それを聞くものもよく呑み込めた」（黒田重太郎）

「生徒が描いている作品の一つ一つの前に立って『ウム、ようがしょう』と言うのが最初で、『ここはもっとこうして』と真っ直ぐに立てた親指の腹でかいた線をこすり消してしまって新たにかき直す。どうかすると次から次と消してしまうから結局本人のかいたところは全部ダメだったことになる」（霜鳥之彦（しもとりゆきひこ））

こうした念の入った指導により、若者たちはメキメキと腕をあげていった。

東京美術学校（現・東京芸術大学）教授をつとめていた浅井は、文部省から命じられて二年間のフランス留学から帰国したばかりで、前年の明治三五年に創立された京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）教授として着任していた。京都は伝統的に日本画が浸透している場所柄で、洋画はほとんど認められていなかった。ところが浅井が京都に来るということで、浅井に学びたいという若者が続出した。前千葉県立美術館学芸課長の前川公秀氏は「本格的な活動をしている洋画家が京都に来たというので、若手たちの期待は大きかったのでしょう」と言う。

彼の研究所設立のきっかけは、関西の洋画家たちの私的な集まりである「二十日会」の提案であった。それまでの私塾をひとつにし、浅井を指導者として迎え入れたいというものである。快くこの提案に応じた浅井は、聖護院研究所が明治三九年に関西美術院と改称し市内の岡崎に移った際の初代院長となり、関西の洋画発展に大きな足跡を残すことになる。

▲「縫もの（ぬいもの）」。油彩、59.3×44.2センチ。パリで宿泊していたホテルの門番の妻を、モデルにしたもの。人物画の傑作。　ブリヂストン美術館

▲明治39年頃、浅井宅における記念写真。手前左端が浅井。後列右から4人目が梅原龍三郎、5人目が安井曾太郎。　至文堂提供

浅井忠は安政（あんせい）三年（一八五六）、佐倉藩士の長男として江戸木挽（こびき）町（現・中央区銀座）に生まれた。明治維新により武家の没落にあいながらも、明治九年、工部美術学校が創設されると、その画学科に入学。ここでイタリア人のフォンタネージによるわが国初の洋画教育が始められる。同期に小山正太郎、山本芳翠（ほうすい）らがいた。しかしながら、この芽生えたばかりの洋画は、フェノロサや岡倉天心（てんしん）らによる伝統美術復興の運動が起こると、さまざまな抑圧を受けることになる。明治一五年の第一回内国絵画共進会には、洋画家の出品は認められなかった。こうした洋画排斥の時代を耐えてきた浅井らは、明治二二年に、最初の洋画団体である明治美術会を結成したのである。

明治二九年、東京美術学校に西洋画科が設置されると、黒田清輝（せいき）ら外光派（「紫派・新派」）が教授陣として迎えられ、明治美術会の作家たちは「脂（やに）派・旧派」と呼ばれ、古臭い絵とされた。これに対して、明治美術会から激しい反発があり、浅井も東京美術学校教授として迎えられたが、彼はこうした美術界の動向にいや気がさしていた。在任一年半にしてフランスに留学。三五年に帰国すると、浅井は東京の主流派に背を向けるようにして、京都へ向かったのである。明治三六年に京都で行われた関西美術会の第二回展に、滞仏中の作品多数を発表。自然と人間に向けられた率直なまなざしは、時代の動向を越えて多くの人の心を動かした。

浅井の関西での功績は、洋画壇の発展に尽くしただけではなかった。滞仏中のパリ万博で見たアール・ヌーボーの工芸図案に興味を持った浅井は、明治三六年に京都の陶芸家や図案家たちと研究団体「遊陶園」を設立、三九年には漆芸家たちと「京漆園」を設立し、工芸の革新に力を注いだ。京都で活動する浅井は、まるで水を得た魚のようであった。

しかし、この至福の時は長くは続かなかった。明治四〇年一二月、浅井は五一歳で没した。あまりにもおしまれる死だった。

東京国立博物館

▲「グレーの秋」。油彩、八〇×六〇センチ。浅井といえばグレー村というほど、数多くの名作が生まれた滞仏中の傑作。明治期における洋画の頂点とされる。

20世紀博物館

相撲博物館 東京・墨田区

懐かしい四股名が並ぶ中、〝国技〟の舞台裏をじっくり見せる

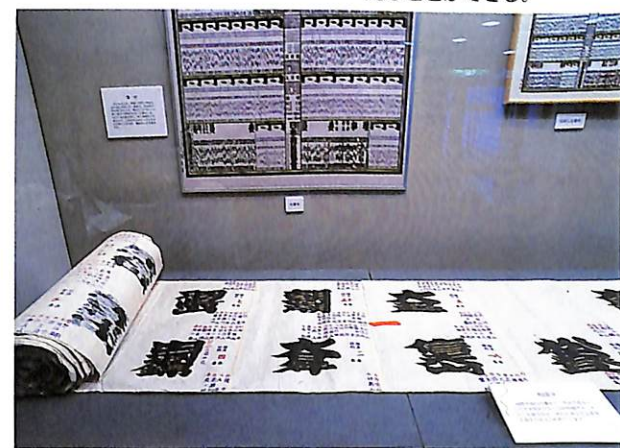
桑原茂夫

大相撲に独特のしきたりやルールがあることは何となくわかっていても、土俵そのものに、目に見えない祈りがこめられていることまでは知らなかった。目に見えないというのは、祈りの抽象的なあり方を言っているのではなく、実際に土俵の中にお守り袋が埋められているのである。

このお守り袋は「しずめもの」と称されている。土にひそむあらあらしい神が怒り出さないように、そして土俵上で怪我など起きないようにというお守りである。勝栗（勝ちに通じる）、榧の実（食べると長生きする）、昆布（福を得る）、するめ（のしのこと）、洗米（五穀豊穣）、塩（清め）などの縁起物を和紙で丁寧に包んだもので、これを土俵中央にうがった一五㌢角の穴に納め、御神酒を注いでから土をかぶせる。

年六場所、どの場所でも、初日の前の日に親方や呼び出し、行司などの関係者だけで催される〝土俵祭り〟に欠かせない、大事な祈りの行事なのである。

▲土俵祭りの様子を展示したコーナー。中央手前に見えるのが「しずめもの」で、これが土俵中央に埋められる。

但馬一憲

▲昔の名横綱のコーナー。左は、明治36年に横綱になり、大正時代にかけて一世を風靡した常陸山（ひたちやま）のダイヤモンド入り化粧回し。右に、江戸時代の名横綱、谷風らの横綱。現在のものに比べると、かなり細目である。

この相撲博物館は、華やかな取組の背後にあるこのような舞台裏を、じっくり見せてくれるのだが、収蔵点数の多さと広さの関係から、二ヵ月に一回のペースで展示内容を変えている。だからといって、一回ごとの展示内容が薄くなるわけではない。むしろ、世間とは遠く離れた感のある世界の裏側が見られるのだから、いろいろ見られる方が面白いと言える。

たとえば、筆者が訪れた時は、「しずめもの」のほかに「巻」という力士別の勝負表や、吉田司家から出された横綱の免許状、番付の原本となる「元書き」（これを四分の一に縮小して印刷し、各方面に配付する）、「出し幣」という晴天を祈るために櫓から突き出された竹竿、土俵の俵の作り方などが展示されていた。

▼力士別の勝負表である「巻」。自分が負けた相手が上段に、勝った相手が下段に記されている。ここには大起（おおだち）、信夫山（しのぶやま）、朝潮などの懐かしい四股名を見ることができる。

「巻」には、番付順に力士の四股名が記されており、勝ち負けの欄にそれぞれ相手力士名が書きこまれるようになっている。そして最終的な成績が、最後に書きこまれる。そこには、〝勝星十三番、勝越十一番〟といった、勝越し、負越しの程度を重視した表現が見られる。昭和三〇年の「巻」には、栃錦、鏡里、吉葉山、大内山などの懐かしい四股名が上位に並んでいて、それだけに、取組相手や勝ち負けを書いた筆が生き生きとしたものに感じられた。

ところで学芸員の中村史彦氏は今、大相撲の世界だけに閉じこもることなく、地方の神社などで行われる、伝統的な相撲なども取材してまわっている。そうやって視野を広げ、その目でもう一度、昔からの資料や収蔵物を見直すつもりなのである。今よりもさらに深みのある展示で、国技とされている大相撲の背景を楽しませてくれることだろう。

●相撲博物館
東京都墨田区横網一―三―二八
☎〇三―三六二二―〇三六六
JR総武線両国駅下車、徒歩一分
開館時間＝一〇時〜一六時半
休館日＝土曜、日曜、祝日、年末年始
（ただし場所中は国技館入場者のみ）
入館料＝無料

▲中央奥上に見えるのが、櫓に飾った「出し幣」で、右側の壁ぞいに張られているのは「水引幕」。まだ四本柱が立てられている時代に、屋根の下に張りめぐらされていたもの。

「ビーフシチューには大根と人参を」日本初のグルメ小説が超人気で連載360回

村井弦斎「食道楽」のレシピ700！

▲大ベストセラー「食道楽」とその口絵。描かれている「手本とすべき」台所は、岩崎男爵邸（円内も同じ）。

◀『女中読本』『小僧読本』などの実用書も書いた村井弦斎は、小説「酒道楽」「女道楽」や戯曲もヒットした、当時の流行作家の一人だった。

明治三〇年代、まだ、何かにつけて卑しめられていた「食」を真正面から取り上げた村井弦斎の小説「食道楽」は、たちまち話題を集めた。そこには、西洋の文明開化の香りに満ちた数々の新しい料理や食材・調理器具などが紹介されているだけでなく、合理的な台所のあり方から栄養論までが展開されており、みごとに「食」を文化に仕立てあげたのである。

ヒロイン「お登和嬢」にちなんだ洋食屋が出現

明治三六年、「報知新聞」は一月二日から異色の連載を開始した。村井弦斎（四〇）の小説「食道楽」である。

「食道楽」の物語はいっぺんに餅一八切れ、鰻丼五つぐらいをたいらげるという男性の腹の中の胃と腸のユーモラスなやりとりから始まる。この大食漢が好意を

早稲田大学提供

寄せるのが才色兼備の「お登和嬢」で、食べものに目がない彼やその友人たちのため、「お登和嬢」は得意の料理をざっと七〇〇種も作っていく――。

「食道楽」は、当初からかなりの読者の反響が寄せられていたので、六月、まず『食道楽・春の巻』が報知社出版部から単行本（八〇銭）として売り出された。最初、三〇〇〇部発売されたが、これが半年たらずで売り切れ、ただちに再版。九月までの四ヵ月間で一八版を重ねた。

新聞の連載はこの年一二月二七日まで三六〇回続いたが、「食道楽」の評判は高まる一方で、同年一〇月には『夏の巻』、一二月に『秋の巻』、そして翌年三月に『冬の巻』と次々に発行されていった。さらにまったく衰えを見せない人気のため、三九年一月、あらためて「食道楽続篇」の連載が「報知新聞」紙上で始まり、その年の暮れまで連載され、三九年五月に『続篇・春の巻』、九月に『同・夏の巻』、四〇年五月に『同・秋の巻』、六月に『同・冬の巻』の四巻が発売された。

「食道楽」には、当時としては目新しい料理がひんぱんに登場する。たとえば「牛肉のシチュー（手軽）」では「バラ肉かブリスケ肉を一寸（約三センチ）四角位に切って水から二時間程ゆでます。そこへジャガ芋や人参玉葱何ぞを入れて塩で味をつけます。ここへメリケン粉を少し水で溶いて加へ暫く煮て火から卸します」という記述に続いて、取り合わせの野菜として別に大根、薩摩芋をあげたりしている（『続篇・冬の巻』）。

「野菜を調理する時には先づ其の取り合わせを注意しなければなりません、その例を挙げれば第一、澱粉の物と脂肪の物です。即ち薩摩芋南瓜ジャガ芋の様なものにはバターとかクリームとか云ふも↖

▲質や鮮度を重視した弦斎は、山羊や鶏を飼っていた。

▲弦斎の野菜園。広大な敷地には果物や花も植えられていた。

▶「上流階級の模範」とまで言われた大隈重信邸の台所（『食道楽 春の巻』口絵。右ページ写真も）。明るく調理しやすい造りになっている。

のがよく合つて好い味を出します……」（『続篇・春の巻』野菜料理心得）

このように、それぞれの料理について材料、作り方から、注意すべきことまで詳細に記されている。また、この頃、ほとんど知られていなかったアスパラガス、カリフラワーなどの野菜、レバー、ハート（心臓）、タン、脳髄などを使った料理の紹介もある。

こういった「食」に関することのほかに、「食道楽」は食生活の改善、台所の合理化についてや栄養学、家庭の衛生法、テーブルマナー、女性や夫婦のあり方にまで筆がおよんでいる。その広範な実用性が、多くの読者をとらえたのである。

そして、これは良妻への必読書として、「子女の嫁入り道具の大切なひとつ」と言われ、中流以上の家庭にはかならず備えられるようになった。

「食道楽」の評判が広まるにつれて、当時、まだ珍しかったレストランで「食道楽」のヒロイン「お登和嬢」にちなんだ「お登和亭」という店が現れた。また、歌舞伎座では六代目・尾上梅幸がお登和に扮して幕間にシュークリームを観客に配ったりした。

当時、神奈川県小田原に住んでいた弦斎のもとには毎月、三〇〇〇円前後の印税が送られてきた。東大出の官吏（国家公務員）の初任給が五〇円の頃である。地元の銀行では、「小説家がそんなに稼げるのなら、うちの子どもを小説家にしたい」と話し合ったりしていたという。

弦斎は、このベストセラーによる莫大な収入で、平塚海岸近くに数千坪の土地を購入し、ここに別荘、野菜園、果樹園、花園などを設けるとともに、さらに山羊や鶏の飼育も始めた。

名門出の夫人が執筆に内助の功

弦斎（本名=寛）は文久三年（一八六三）一二月一八日、三河国（現・愛知県）豊橋に生まれた。明治六年、東京外国語学校に入学したが、無理な勉学がたたって健康を害し、中途退学にいたる。

明治一六年、二〇歳の弦斎はサンフランシスコへ渡った。

▲妻・多嘉子。弦斎考案の衛生的で動きやすい、白い割烹着を着ている。

明治二二年、弦斎は滞米中に知り合った報知社の矢野龍溪社長（当時・三八歳）に招かれて入社。明治二八年、同社の編集長に就任した弦斎は、三三年、尾崎多嘉子（当時・二一歳）と結婚する。多嘉子の父は大隈重信侯の従弟、母は後藤象二郎伯爵の縁戚という家柄だった。この結婚が「食道楽」を書くきっかけとなる。小説の中で多彩な料理を披露する「お登和嬢」は、多嘉子がモデルと言われる。

多嘉子によって〝食〟に興味を抱くようになった弦斎は、新しい献立を次々に試食して行く。その料理は、多嘉子が手がけたもののほか、「大隈重信家の料理人、アメリカ大使夫人に仕込まれたコック、中華の神田宝亭や維新号、旧小田原藩の料理方、八百善などの協力があった」と弦斎の長女、故・村井米子（登山家）は書いている（復刻版『食道楽』解説・柴田書店）。

そして弦斎は、アメリカで見聞きした豊かな家庭生活と、女性が尊重される市民社会を踏まえ、執筆に取りかかったのである。

「食道楽」を「明治の文化遺産のひとつ」という服部栄養専門学校理事長・校長の服部幸應氏は、次のように語る。

「食に関して保守的な日本人が、食べ物のことを言うのがまだはばかられていた、この時代に、弦斎は堂々と、食をテーマに据えた小説を発表したわけです。出てくる数々の料理、作り方も今でも十分通用します。弦斎は、高嶺の花だった西洋料理が、日本の社会に広まるきっかけを与えた食文化の先駆者です」

弦斎は晩年、動脈瘤で倒れてからも病床で闘病日記を書き続けたが、昭和二年七月三〇日、死去した。六五歳だった。

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

▲大阪築港大桟橋竣工（7月）明治30年から始まった防波堤建造などの、築港工事の一環として完成（現・大阪港中央突堤）。近代的貿易港へ変貌するための基礎が整った。

毎日新聞社

▼恵比寿麦酒、工場敷地内にビヤホール（7月25日）東京・目黒の醸造所に、玉突台なども備えた夏の娯楽場が開場。写真はビール積み出し専用駅。恵比寿駅は3年後、社名から命名。

東京芸術大学提供

▲日本におけるオペラの初上演（7月23日）東京音楽学校在校生らが、講堂で「オルフォイス」を上演。後に国際的プリマドンナとなる柴田（三浦）環（19、中央）が才能を見せた。

「伊藤博文伝」

▲伊藤博文（62）、3度目の枢密院議長に就任（7月13日）対立する山県有朋・桂首相らの策謀により、議会からはずす勅令。政友会総裁辞任に追いこまれた。

▼東清鉄道、開通（7月1日）シベリア鉄道に接続するロシアの極東進出のルート、満州里から長春を経て大連にいたる路線が完成。写真は警護するロシア兵。

▼歌舞伎「紅葉狩」を映画で一般公開（7月7日）記録用に撮った9代目市川団十郎（右）と2月に亡くなった5代目尾上菊五郎の名舞台を団十郎の病気休演の穴埋めに、大阪・中座で上映。

明治36年7月

1（水）●露が建設の東清鉄道、正式に開通。

2（木）●中元の贈答品、目玉の砂糖・そうめんは不景気の影響で前年より安い、と新聞に。

3（金）●日本体育会、初めてローラースケートを導入。

4（土）●宇都宮市、小学校のトラホーム罹患児童が八六〇人にのぼり、市費での治療を決める。

5（日）●幸徳秋水著『社会主義神髄』刊行。

6（月）●天皇、伊藤博文に枢密院議長を要請（13日就任、14日西園寺公望が政友会総裁に）。

7（火）●行政執行法による初の代執行。東京・八王子で屋上制限規則違反を除去。

8（水）●片山潜著『我社会主義』刊行。

9（木）●関西・近畿・中部を襲った低気圧、福井県だけでも死者一三人、床上浸水三四〇〇戸。

10（金）●韓国・元山の飢饉、子を棄てるもの、餓死するものはなはだ多い、と帰国船長談が新聞に。

11（土）●京都の平安紡績職工、未払い賃金で紛糾。

12（日）●露、極東に二個師団を派遣。

13（月）●警視庁、雇人口入れ営業の取締規則を公布。

14（火）●外国語学校独語科の二年級は約半数が落第、一年級の合格は三〇人中一二人、と新聞に。

15（水）●洋画家・和田英作、欧州留学から帰国（10月、東京美術学校教授になる）。

16（木）●ベルリンで国際通貨会議、金本位国と銀本位国間の固定通貨関係を決定。

17（金）●三相が兼任の桂改造内閣、宮中で親任式。

18（土）●全国の小学生数、尋常科四〇三万八二五二人、高等科一〇五万四七九三人、と新聞に。

19（日）●広島県呉警察署巡査三六人、上官専横で辞職。

20（月）●露、鴨緑江森林監督者と竜岩浦土地租借契約。

21（火）●東京鉱山監督署、足尾銅山に鉱毒除外命令。

22（水）●韓国、日本へ京釜間電線取り払いを要求。

23（木）●学生が結成した歌劇研究会、東京音楽学校で「オルフォイス」を上演（日本語歌劇の初め）。

24（金）●米国・ニューヨークの株式市場大暴落。

25（土）●浜松の車夫約一四〇人、官制賃銭に反発スト。

26（日）●大日本同胞融和会、大阪で結成。

27（月）●出版社はすでに国定教科書の内容を知り、参考書の出版にとりかかっている、と新聞に。

28（火）●小村外相、日露交渉開始の提議を要請。

29（水）●艦船の発着を上官に報告する規則改正公布。

30（木）●第二回ロシア社会民主労働党大会、分裂。

31（金）●北海道第七師団騎兵隊二七〇人、折詰弁当で食中毒（三人死亡、四三人入院）。

◀浅野川大橋渡り初め（8月16日）金沢市中心部を流れる浅野川に架かる歴史ある橋を、架け替え。盛大に祝典が行われた。写真の対岸が、主計町（現・尾張町）から橋場町の繁華街。

「近事画報」

▲東京に「チンチン電車」初登場（8月22日）東京電車鉄道が、発車合図が特徴の木造車を、新橋―品川間に運行。9月には東京市街鉄道が、数寄屋橋―神田橋間を開通、帝都名物に。

明治大学提供

▲明治大学、認可（8月25日）明治14年創立の東京・駿河台の私立明治法律学校が、専門学校令により大学に改称。予科もおかれた。写真は、翌年の錦町校舎。

「ファイト・イン・ザ・ファー・イースト」

◀極東総督にアレクセーエフ（8月12日）ロシアが、黒竜江・関東省などを管区とする極東総督府を旅順に設置。満州撤兵の約束と反する動きが露骨になる。

▼第1回ツール・ド・フランス開始（7月1日）フランスを1周する世界最長の自転車レースに、60人が参加。パリ近郊を出発、区間別優勝・総合優勝を争った。到着は19日。完走者は21人だった。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

呉市企画部海事博物館推進室提供

▲初の河川警備用砲艦「宇治」竣工（8月11日）清国での権益拡大を背景に、急いで建造。長江での任務に適するよう、吃水を浅く2.11メートルにしたのが特色。

明治36年8月

1（土）●東京府教育講習会、二五〇人参加で開講。

2（日）●近頃、汽船乗組員紹介と称し不当な手数料を取るものあり、海員志望者は注意、と新聞に。

3（月）●オーストリア・ハンガリー皇帝、ローマ法王選挙に拒否権を行使。

4（火）●愛知県豊橋の花火製造所で火災、焼死一人。

5（水）●トルコ・モナスチルで露領事射殺、露が軍艦を派遣（トルコ、補償金を支払って解決）。

6（木）●大阪瓦斯、大阪市と報償契約を締結。

7（金）●米国富豪・ロイド、香港からの帰途、神戸―横浜間の船中で心臓発作で死亡。

8（土）●日伊通商協議進行せず、両国の輸出入品は従来どおり最恵国待遇の適用を通達。

9（日）●頭山満・神鞭知常ら、対露同志会を結成し、露の満州撤兵要求を決議（会長・近衛篤麿）。

10（月）●仏・パリで地下鉄火災、死者八四人。

11（火）●日本初のマキシム機関砲を搭載の河川警備用砲艦「宇治」、呉海軍造船廠で竣工。

12（水）●露、旅順に極東総督府を設置。

13（木）●中央大学の前身、東京法学院が専門学校令で改称（20日日大、25日明大、29日法大も）。

14（金）●日本郵船注文の七二〇〇トンの日本最大船、長崎三菱造船所で製造に着手、と新聞に。

15（土）●賠償責任準備の積み立てなど取引所法規改正。

16（日）●大分農工銀行で行員による六〇〇円盗難事件。

17（月）●福島県会津の早稲はすでに出穂、と新聞に。

18（火）●東京市の小学教員は一一二〇人、と新聞に。

19（水）●米国・ルーズベルト大統領、独占資本に対しシャーマン反トラスト法の発動も辞さずと言明。

20（木）●愛知県、初の乗合自動車営業取締規則を制定。

21（金）●上野―青森間に寝台車と食堂車を運転。

22（土）●東京電車鉄道、新橋―品川間で営業開始（東京における路面電車営業の初め）。

23（日）●第六回シオニスト大会、スイスで開催。

24（月）●相場低落で関西の三米穀取引所立ち会い休止。

25（火）●有島武郎、米国留学のため横浜を出発。

26（水）●小村外相、韓国に露との竜岩浦租借契約を拒絶するよう要請（27日、受諾回答）。

27（木）●堺利彦、『万朝報』にゾラ作「労働問題」を抄訳して連載開始。

28（金）●婦人の間に束髪花月巻が大流行、と新聞に。

29（土）●露・ウィッテ蔵相失脚、満韓武力進出派台頭。

30（日）●斎藤紀一、青山脳病院を東京で開業。

31（月）●神宮皇学館、官立専門学校となる。

▲孫文、ハワイで興中会再建（9月）広州蜂起・恵州事件失敗を経て、組織を立て直し。写真後列中央が孫文。2年後、全国的な中国革命同盟会を結成。

▲大阪に市電第1号（9月12日）西区花園橋（後の九条新道電停付近）―築港桟橋間約5キロを運転。料金は1区1銭。時ならぬ落雷が祝砲となった。

▲永井荷風（23）、渡米（9月22日）実業家にという父の意にはからいだった。タコマやニューヨークなどでフランス語や英文学を学び、新鮮な感動を受けた。

加藤／平凡社提供

「近事画報」

▶花井お梅、汁粉屋開業（9月1日）東京・日本橋の待合の女将だった頃、父と争い、それにからんだ箱屋の峯吉を刺殺。16年間の服役から出獄。狂言「明治一代女」のモデルに。

▲モルガン、お雪を落籍（9月30日）米財閥一族の富豪が、祇園の23歳の芸妓を見初め、白米1升19銭の時代に、4万円で身請け。円内はモルガン（32）。翌年二人は米国へ発った。

「警視庁百年の歩み」

▶「騎馬巡査」勢ぞろい（9月）警視庁訓令により創設。警護勤務、交通整理、デモ・集会・行事などの雑踏整理などに出動するため、馬術訓練を受けた14人が任務についた。

明治36年9月

1（火）●井上円了、町村単位の修身教会設立を企画。
●米国、初の法的認可自動車プレートを発行。

2（水）●日本書籍、国定教科書翻刻のため同業者が合同で設立総会を開催（九割以上を独占）。

3（木）●農商務省総務長官に和田彦次郎が就任。

4（金）●トラホーム患者が年々増加の傾向、東京の通俗衛生会が対策に乗り出した、と新聞に。

5（土）●田中宮相が京都・祇園の万亭で売春婦を招き一夜一五〇金で戯れたとの巷説、と新聞に。

6（日）●露、清国への七項目要求を撤回、新要求を提出。

7（月）●陸軍、糧秣廠を宇品に、被服廠を大阪に設置。

8（火）●国際写真グラフィック美術展覧会、独で開催。
●英労働組合大会、保護関税実施案に反対表明。

9（水）●山崎愛国堂、東京・浅草に一五日まで大阪勧業博覧会と同じイルミネーションを飾る。

10（木）●福島県入山炭坑坑夫、役員の虐待に抗議暴動。

11（金）●内田駐清公使、露の新提案に関し清国に警告。

12（土）●大阪に日本初の市営電車、市営電気軌道の花園橋―築港桟橋間が開業。

13（日）●東京電灯、市街鉄道に五〇〇キロワットの供給開始。

14（月）●対露同志会、桂首相に対露強硬警告覚書渡す。

15（火）●東京市街鉄道、数寄屋橋―神田橋間運転開始。

16（水）●オーストリア皇帝、ハンガリー軍隊との統合を発表（ハンガリーの不満増大）。

17（木）●文部省廃省問題をめぐり廃止論の大学派と阻止論の茗渓派の衝突、と新聞に。

18（金）●英・チェンバレン植民相、保護関税実施を反対され辞任。

19（土）●白馬会油絵展覧会で黒田清輝の二点ほか六点の裸体画が警察から陳列差し止め、と新聞に。

20（日）●京都の二井商会、乗合自動車を営業開始。

21（月）●警視庁、騎馬巡査（一四人）を初めて設置。

22（火）●永井荷風、米国留学へ出発（24日、翻訳したゾラ作『女優ナナ』刊行）。

23（水）●関東地方に暴風雨、浸水家屋三万三八〇〇戸。

24（木）●内村鑑三、「万朝報」に非戦論の四回連載開始。

25（金）●大日本東洋婦人会、発足して交流開始。

26（土）●東京電車鉄道と東京市街鉄道の合併申請却下。

27（日）●栃木県谷中村の水害被災民三〇〇人、工事中の堤防決壊で県庁へ請願途上、阻止される。

28（月）●サリチル酸など飲食物防腐剤取締規則公布。

29（火）●清国の撤兵要求をロシアが無視、と新聞に。

30（水）●京都・祇園の芸妓・加藤ゆき、米国富豪のモルガンに落籍される（翌年1月、結婚渡米）。

CORBIS-BETTMANN／PPS

「近事画報」

▲児玉源太郎（51）、参謀次長に（10月12日）日露開戦が近づく中、日清戦争で事実上の陸軍大臣だった知将が、内務大臣から参謀総長・大山巌の補佐役に。

◀初のワールドシリーズ開幕（10月1日）ナ・リーグのパイレーツとア・リーグのレッドソックスが、ボストン球場で対戦。両リーグの平和協定から実現。

「近事画報」

◀尾崎紅葉（35）、散る（10月30日）明治30年から「読売新聞」に「金色夜叉」を連載中。胃癌のため未完のまま逝った。泉鏡花、小栗風葉、徳田秋声などの門弟を育て、文字どおり明治文壇の大家。

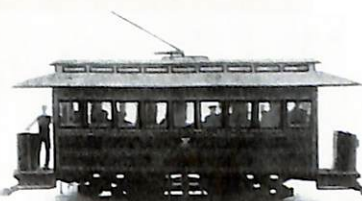
The National Portrait Gallery／デジタルハウス

▲エメリン・パンクハースト、女性社会政治連盟結成（10月3日）婦人参政権の獲得をめざし、長女らと運動。ロンドンに本部をおき、従来の穏健派とは違い、放火などのゲリラ戦術を展開。

尾形光彦提供

日本女子大学成瀬記念館提供

◀白木屋呉服店、新装開店（10月1日）東京・日本橋に和洋折衷の3階建て店舗を建築。これを機に、従来の座売り方式から洋風の商品陳列方式としたほか、電話室勤務の女子店員を初採用。

▲日本女子大運動会に、デルサルト体操（10月）徒手体操の改革として登場した、感情表現を重視する体操。同校の運動会は3回目。工夫された演目が話題を呼び、参観者は3000人を超えた。

明治36年10月

1（木）●初の常設映画館、東京・浅草の電気館が開場。
●東京の白木屋が陳列式にして新装開店。
●米大リーグ、第一回ワールドシリーズ開幕。

2（金）●露・オーストリア両皇帝が会見、マケドニア改革案を作成。

3（土）●英でパンクハーストら、女性社会政治連盟（WSPU）結成。

4（日）●児童劇の先駆、お伽芝居「狐の裁判」などを川上音二郎ら東京・本郷座で上演。

5（月）●第一回対露同志会全国大会、東京で開催。

6（火）●日露会談、外相官邸で再開。

7（水）●米国のラングレー教授、初の飛行機飛行に失敗、一二月にも失敗し政府援助が打ち切りに。

8（木）●社会主義者、東京・神田青年館で非戦演説会。
●露軍、奉天省城を占領（第三次撤兵不履行）。

9（金）●大阪巡航船員一〇〇人、待遇改善要求でスト。

10（土）●日本絵画協会・日本美術院、最後の共進会。

11（日）●旅順在住の日本人、長崎へ引揚げ。

12（月）●内村鑑三・堺利彦・幸徳秋水ら、日露開戦論に傾いたとし朝報社を退社。

13（火）●新任の楊清国大使、「春日丸」で神戸着。

14（水）●戦争近しの噂で外債大暴落、と新聞に。

15（木）●衆議院議員の島田三郎邸へ、刺客押し入る。

16（金）●ロシア、東洋艦隊の増強急ぐ、と新聞に。

17（土）●日本活動写真会、仏製天然色映画を初上映。
●露、竜岩浦に砲台を築き日本人の上陸を禁止。

18（日）●霞ケ浦汽船船長、航行中橋梁で頭を打ち即死。

19（月）●東郷平八郎、常備艦隊の司令長官に就任。

20（火）●第六代日銀総裁に松尾臣善を任命。

21（水）●栃木の足利銀行で大阪の商店が振り出した為替金を騙し取った犯人、逮捕。

22（木）●島崎藤村の小説「水彩画家」が翌春から「新小説」に連載、と新聞に。

23（金）●非開戦論の曾禰蔵相、政界から追放と新聞に。

24（土）●元老・大臣会議、対露問題を協議。

25（日）●大島如雲ら、第一回鋳金展覧会を東京で開催。

26（月）●東京の秀英舎活版職工八〇〇人、スト。
●五月に授業開始した神戸高商、開校式開催。

27（火）●政府、タバコ製造専売計画の大綱を発表。

28（水）●シベリア経由の第一回郵便、長崎から発送。

29（木）●日本郵船「東海丸」、北海道沖で露船と衝突し沈没、一五〇人余溺死。

30（金）●佐佐木信綱、歌集『思ひ草』刊行。

31（土）●哈爾浜の露兵八五〇〇人、南下開始。

「日本の野球史」

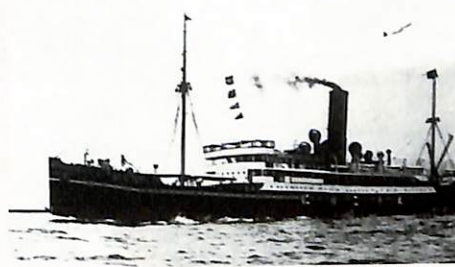
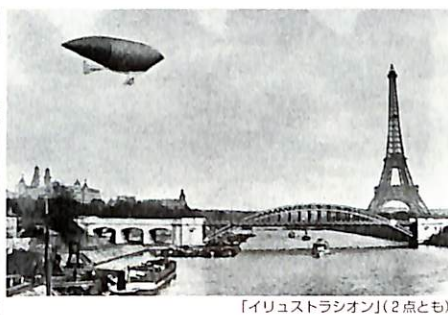
◀幸徳秋水・堺利彦、「平民新聞」発刊(11月15日)前月、平民社を結成、週刊紙で非戦・社会主義を訴えた。写真は有楽町の社前、中央に堺と幸徳。

▲第1回早慶戦(11月21日)新進の早稲田が、勇名をはせていた慶応に挑戦。東京・三田綱町の慶応グラウンドで対戦し、11対9で慶応が打ち勝った。

近藤千浪提供

日本郵船歴史資料館提供

▲豪州航路向け「日光丸」竣工(12月26日)冷暖房装置「サーモタンク」初搭載、床の間つき日本間ありの豪華ぶりだったが、日露戦争に徴用され、初就航は終戦後に。

▼兵庫で陸軍大演習(11月12日)日露開戦が現実的になり、明治天皇統監のもと、舞子・姫路を中心に、東西両軍に分かれ演習を行った。写真は揖保川を渡る西軍。

▼奉答文事件起こる(12月10日)河野広中議長(写真)が、衆院開院式の奉答文に、対露強硬の立場から政府弾劾の文章をもりこみ、これが可決。衆院解散になった。

「イリュストラシオン」(2点とも)

◀▲初の操縦可能な飛行船(11月12日)フランスの「ルボーディ号」がパリまで55キロを記録。独「ツェッペリン号」には、まだ操縦性がなかった。左は操縦士・ジェシュメ。

明治36年11月

1(日)●露水兵、韓国・仁川(インチョン)で日本人と格闘。
2(月)●巡洋艦「音羽」、横須賀で進水式。
3(火)●パナマ、米艦の援護でコロンビアから独立し共和国を宣言(6日、米国が独立を承認)。
4(水)●東京監獄の看守、酩酊して抜剣し免職に。
5(木)●孫文、マウイ島の実兄のもとで日々著述に余念なし、と新聞に。
6(金)●横須賀などに海軍工廠設置の条例を公布。
7(土)●亀甲萬醤油、博覧会での名誉銀牌受賞記念に一樽に帛紗一枚の景品、と新聞に。
8(日)●対露同志会が桂首相と伊藤博文に送った対露強硬警告覚書、秘すると誤解招くと公表。
9(月)●札幌麦酒、東京の吾妻橋分工場が落成。
10(火)●文部省、小学校の集会などへの使用を許可。
11(水)●天皇、翌日からの陸軍特別大演習を統監のため兵庫県へ出発(19日、帰京)。
12(木)●操縦機能を持った仏の飛行船、飛行距離五五キロの記録を達成。
13(金)●長野師範、教員との紛糾で生徒四人が停学に。
14(土)●横浜生糸取引所の太一番格の相場は、最高一〇五〇円で最低は九五〇円、と新聞に。
15(日)●幸徳秋水・堺利彦ら、週刊「平民新聞」を創刊。即日一万部を売る。
16(月)●女子出札掛四人、東京の新橋駅に初登場。
17(火)●ブラジルとボリビア、国境を定める条約調印。
18(水)●米国、パナマと運河地帯永久租借の条約締結。
19(木)●岐阜県の農民・田中守平、桜田門外で日露問題に関し、平和は国益にあらずと直訴。
20(金)●教科書疑獄事件で審議中の大阪府視学官が軍事機密漏洩容疑で再逮捕。
21(土)●第一回早慶対抗野球試合、東京・三田で開催。
22(日)●東西連合新聞記者大演説会、大阪・中之島公会堂で対露強硬策を主張。
23(月)●国際的な情報の「電報新聞」、東京で創刊。
24(火)●岩手県盛岡での廃県反対懇親会に一〇〇〇人余が参集、原敬も出席。
25(水)●米のフィッツシモンズ、ボクシングのライト・ヘビー級世界王者に。史上初の三階級制覇。
26(木)●「大阪朝日」一〇万、「万朝報」「報知」八万など、一四万部の「二六新報」が他社の発行数を公表。
27(金)●雇い主の虐待で神奈川県の製糸女工鉄道自殺。
28(土)●対露同志会、桂首相に決議文を提出。
29(日)●吾妻コートにレース襟巻が大流行、と新聞に。
30(月)●ハワイに日本人会誕生、島民の半数日本人に。

証言・あの日この日
泉鏡花(29)

10月30日(金)〈形勢不穏なり、予は二階に行きて、謹みて隣室に畏まれり。此処には、石橋、丸岡、久我の三氏あり。人々は耳より耳に、耳より耳に、鈍き、弱き、稲妻の如き囁きを伝え居れり。病室は唯寂として些のもの音もなし。時々時計の軋る聲とともに、すゝり泣きの聞ゆるのみ/十一時五分、予は病室の事を語る能はず〉(泉鏡花「紅葉先生逝去前十五分間」)

この日、明治文壇を代表する流行作家・尾崎紅葉が危篤におちいった。多くの弟子たちが駆けつけたが、その中には泉鏡花もいた。実は鏡花は、この年1月から神楽坂の芸者・桃太郎と同棲していたが、それが師・紅葉の逆鱗に触れ、「まだ早い」と激しく叱責されたばかり。しかしそれでも長い間、師と仰いできた紅葉の35歳の早すぎる死に、あらためて深い衝撃を受ける。(山崎行太郎)

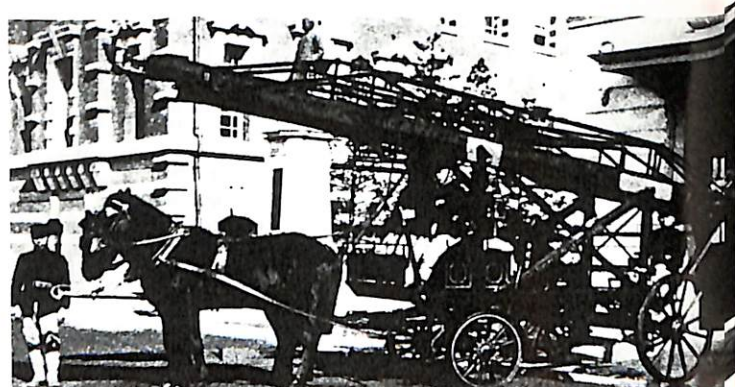
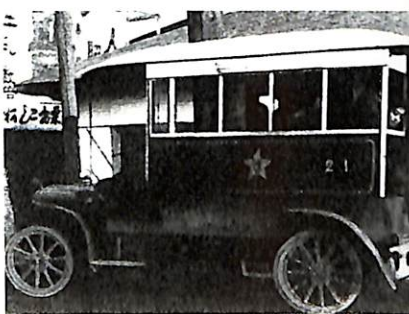
「日露戦没海軍写真帳」

◀▲連合艦隊編成(12月28日)日露開戦必至とみた山本海相が組織。司令長官に舞鶴鎮守府司令官・東郷平八郎中将(写真左)を指名。ロシア艦隊を迎撃するには彼の力が必要、との大抜擢だった。

▼救助はしご車初出動(12月10日)欧州視察の消防署長の提言で、ドイツ製木鉄混合の18メートルはしご車を購入。費用2200円。東京・日本橋の3階建てビル火災に、馬に引かれて登場。

▼河原操子、蒙古王室教育係に(12月21日)上海の中国人女学校教員から、日本軍の任務をおびて日露開戦前のカラチン王室に赴任、ロシアの動きをさぐった。写真は、操子(中央)と国王夫妻。

▼京釜鉄道に速成の緊急勅令(12月)日露開戦必至の折、明治34年に着工しながら、資金難・資材難、民族的抵抗から難航していた工事に鞭が入れられた。翌年、ようやく完成。38年から開業。

「太陽」

▶大阪に初の乗合バス(12月)中川辰之助らが開業。蒸気自動車2台を、梅田—恵美須町間で運行した。翌年には3台を買いたし、日本橋—堺間に走らせたが、明治41年には市電との競合を強いられ廃業に追いこまれた。

明治36年12月

1(火)●閣議、軍艦補充五ヵ年計画を決定。
2(水)●商船学校練習船「大成丸」、川崎造船所で進水。
3(木)●政友会の松田・原と憲政本党の犬養・大石が会合、対議会や外交問題など両党提携を約束。
4(金)●露軍艦、韓国・仁川に集結。
5(土)●長岡半太郎、原子模型の理論発表。
6(日)●秋山定輔ら二七人、交友倶楽部を結成。
7(月)●韓国・仁川の日本居留民有志大会、時局打開には最後的手段しかないと外務省へ打電。
8(火)●熊本の済々黌中学、校舎と寄宿舎が全焼。
9(水)●タバコ製造官業反対全国連合大会、開催。
10(木)●衆院開院式で河野広中議長起草の内閣弾劾を含む勅語奉答文可決(11日、衆院解散命令)。
●キュリー夫妻、ノーベル物理学賞を受賞。
11(金)●露・ローゼン駐日公使、日本側修正案の対案を提出(21日、小村外相、露に再考を要求)。
12(土)●永岡鶴蔵、日本坑夫組合結成のため夕張炭坑から全国遊説に出発。
13(日)●「平民新聞」、中江兆民の「新民論」を転載。
14(月)●山川健次郎・辰野金吾・宇野朗の三博士、初の東京帝大名誉教授に。
15(火)●ノルウェー、一〇年の期限で沿岸捕鯨を禁止。
16(水)●元老・大臣会議、開戦準備に必要な時間だけ交渉を継続する対露方針を決議。
17(木)●米国のライト兄弟、三六メートルの初飛行に成功。
18(金)●日印協会、東京の華族会館で発会式を開催。
19(土)●大審院大失態、教科書疑獄事件で無罪判決の人が新聞発表では有罪に、と新聞に。
20(日)●憲兵駐在所を韓国・仁川港に設置。
21(月)●河原操子、蒙古・喀喇沁王室の教育係に着任。
22(火)●英市場の日本公債、開戦説で二~四ポンド暴落。
23(水)●オランダ公使の馬車、東京・芝で人力車と衝突。
24(木)●清国の留学生三一人、一高へ入学決定。
25(金)●高岡電灯水力発電所、高岡市内に配電線完工。
26(土)●東郷常備艦隊司令官、旗艦を「三笠」に変更。
27(日)●呉線、呉—海田市間開業。
28(月)●戦時大本営条例改正・軍事参議院条例、公布。
●第一・第二艦隊を合わせ連合艦隊を編成。
●対露戦に備え京釜鉄道に速成の緊急勅令。
29(火)●日銀、軍備補充費を政府に貸し付け。
30(水)●閣議、露と開戦の際の対清韓方針(清国は中立維持、韓国は支配下におく)を決定。
31(木)●小村外相、開戦前の財政援助を英政府に公使を通じて要請(翌年1月2日、拒否回答)。

俄楽多市

◀この年、各地で乗合自動車の営業が始まった。京都・二井商会の自動車は二人乗りを6人乗りに改造したもので、故障が続出。

毎日新聞社

三面記事

恋の気分をキャッチした

「魔風恋風」。小杉天外の小説の題名で、この年「読売新聞」に連載されて大評判となった。内容は女学生が親友の許婚と恋におちるというものだが、語呂のよさから恋愛やそのきざし、恋愛への憧れなど、いろいろなことに使われた。

「催眠術」。インチキなこと、いかがわしいこと。この年、精神療法として催眠術が流行したが、中にはインチキ術師も多く、金銭や性的トラブルが絶えなかった。それが転じたもの。

「ウロウロ船」。こざかしい男、情報屋。東京の川筋には小舟に米や野菜などを積んで、船の乗組員に売る商売があり、大きな船の間をうろうろするというので、こう呼ばれた。日露の開戦が避けられなくなると、軍に食いこもうとする商人や、情報を売りこもうとするものが続出、彼らのことを関係者はこう称した。

「阿波味噌」。この頃、阿波（徳島県）の味噌が関西に進出、意外においしいと評判になった。それから関西で意外なもの、掘り出しものをさす言葉として使われた。

食

うまいものは銀座の屋台にあり

うまいものを食いたければ浅草へ行けと言うが、銀座の屋台でもなかなかうまいものを食わせる。その一番手は資生堂の角で、爺さん婆さんの二人でやっている鮨屋で、銀座には屋台の鮨屋が二四軒あるが、この店にかなうところはない。得意は赤貝のヒモで、爺さんも「ヒモを握らせたら鮨職人の中でも一番」と豪語している。

東京日日新聞の横にはとろろ飯の屋台があり、一杯二銭と格安で大繁盛。この店は春先にはシャコの塩ゆでで、アサリの季節には深川飯も出すが、シャコの塩ゆでの風味が格別。

時計屋の京屋の角には「シャモ飯」と看板をかけた店があった。こぎれいな店で一膳三銭、ほかにナマコ、ウニ、シャコのツメなどを添え、安くて洒落ていると評判だったが閉店してしまった。「この頃、オツなものがわかる客がいなくなって、シャコのツメなど気持ち悪いと言って捨ててしまう」。それで商売を続けるのがイヤになったのだという。

（「近事画報」九月号）

◀九月一日、清国の天津に駐屯する熊本二三連隊の軍旗祭で、インド兵同士にも相撲を取らせ、軍曹が行司をつとめた。

「近事画報」

データ

ただ今一七人 東京の女医さん

東京市内には現在、女医が一七人いる。ほかに女性薬剤師と女性歯科医が三人ずつ。一七人のうち、いちばん多いのは日本橋区の五人、次いで本郷区の三人。その次が神田、京橋、深川の三区でともに二人ずつ。最も年長は嘉永五年（一八五二）一一月生まれの五一歳。若い方は明治一〇年五月生まれの二六歳。いずれも開業試験に及第したものである。

（「日本」一〇月二八日号）

日本漫画資料館提供

▲小山正太郎画の「教会の実態」。神聖な場所であるはずの教会が、男女交際の場になっていると諷刺。「日本」1月1日号収録。

CM100年

新聞CM 「最新広告灯」（電灯広告社）

営業項目

（一）電燈廣告

（二）電燈装飾

（三）イルミネーション架設

（四）宴會其他園遊會等の電燈架設

○此廣告は文明の利器たる電氣應用の最新廣告方法なり

○此廣告は自然に同時に且各面共に發も兹を施したる圖案を用ひ人目を驚かすべき彩色入の花瓦燈なり

○此廣告は東京市内目貫の通路に晝夜間斷なく掲示せらるゝ廣告方法なり

○此廣告は費用極めて安廉にして其効用は最も多く且も大なり

イルミネーション

及其他電氣應用の装飾等は意匠斬新にて費用も低廉に御引受可申候

○本社は東京市内に於ける電燈廣告の一手特約店なり

▲▲御用の節は電話又ははがきにて御申越被下候へば直に参上可仕候▼▼

東京市京橋區弓町十九番地

電燈廣告社

電話新橋二七三七番

▲大阪の内国勧業博覧会でイルミネーションが大評判。これに便乗して電灯専門の広告業者が出現した。

三面記事

女性が殺到、菊五郎の葬儀

俳優・尾上菊五郎の葬式（二月二八日）には全東京の四分の一の市民が沿道に集まった。群衆の半分以上は女性で、若い娘だけでなく、菊五郎の茶飲み友達がふさわしいような隠居婆さんも多かった。

女性たちの七割は晴れ着で飾り立てている。残る三割も薄く化粧くらいしている。集まった十数万のお嬢さん、姐さん、おばさん、お婆さんを見ていると、葬式を見るために出てきたのではなく、（着飾った姿を）葬式で見られたいために出てきたことがよくわかる。

ところが春にしては寒い北風の日で、土ぼこりがもうもうと舞い上がり、リスリン（グリセリン）性の化粧だから土ぼこりが顔に貼りついて、どの女性も黄粉のような顔だ。一方、足元は高価な下駄も鼻緒も、足袋も踏みにじられて牡丹餅のようである。縮緬、銘仙、繻子なども、もまれ、こすられ、引き裂かれ、かんざしは飛び、襟は破けている。そこまでしても見られたいのが東京の女である。

午後一時に新富町を出発したはずの葬式行列は、三時半をすぎてもまだ両国橋にやってこない。

（マール社編『百年前の東京（二）』）

▶電話機と非常報知器を備えた巡査の立ち交番所が、東京の麹町に新設された。市内二百余ヵ所に設置予定とのこと。

「近事画報」

はやり歌

緑もぞ濃き柏葉の

作詞 柴 碩文　作曲 楠 正一

緑もぞ濃き柏葉の
蔭を今宵の宿りにて
夕べ敷寝の花の床
旅人若く月細し
黙示聞けとて星屑は
梢こぼれて瞬きぬ

橄欖の花雫すよ
花の甘汁われ吸えば
現ともなき酔心
幻の霧立ち迷う
足下の流れ音立てて
地に私語くや何の旨

星の黙示に驚きて
敷寝の花を蹴て立てば
露のおどろの花うばら
ああ紅よ紫よ
刺を包みて何すらん
偽善は花の刺にして

▲第一高等学校（現・東京大学教養学部）寮歌のひとつ。この頃の一高では毎年2月の記念祭に生徒の新作が発表され、寮歌に加えられた。当時の正門と校舎。

春風

作詞 加藤義清　作曲 フォスター

吹け そよそよ吹け 春風よ
吹け 春風吹け 柳の糸に
吹け そよそよ吹け 春風よ

吹け 春風吹け 我等の凧に
吹けよ吹け 春風よ
やよ 春風吹け そよそよ吹けよ

やよ 吹くなよ風 この庭に
風吹くなよ 風 垣根の梅に
やよ 吹くなよ風 この庭に
風吹くなよ 風 我等の羽根に
吹くな風 この庭に
やよ 吹くなよ風 吹くなよ風よ

▲「おおスザンナ」「ケンタッキーのわが家」などで知られる作曲家・フォスターの、「マッサは冷たい土の中に」が原曲。

サラリーマン

総ガラス張りの工場が人気 機械製紳士靴に行列

トモエヤが日本初の機械製紳士靴を売り出したのは、明治三六年である。京橋に総ガラス張りのモダンな工場を建設し、中の作業がそっくり見えるようにした。靴工は二〇〇人、すべて夜学生で、全員に学生服を着せて作業させた。これが評判で、見物人が後を絶たなかった。

この工場で作った紳士靴を売り出したのだが、前宣伝が効いて初日には店の前には長い行列ができた。値段は二円八〇銭から五円八〇銭まで。手縫いが五円五〇銭から一三円の頃である。

（山川暁『ニッポン靴物語』）

◀一一月三日、東京美術学校の美術祭で仮装行列。教授も一緒にパリのカフェの美術学生や花売り、給仕などに扮した。

「東京芸大百年史」

レジャー

七万平方メートルが六円一〇銭！ゴルフ場の年間賃料

イギリス人貿易商、A・H・グルームが明治三六年、六甲山上に日本初のゴルフ場を開いた（一七ページ参照）。神戸市北区の四鬼祥行さん方には、その時の契約書が残っている。契約書は二通あり、いずれも村の代表として村長の大西太吉、それに借り主「エーエッチグルム」とカタカナで署名がある。一通目は三六年一二月三日付。同日から一〇年間にわたる契約で、賃料は全部（約七万平方メートル）で、何と年に六円一〇銭。二通目は翌年三月五日付で、一通目を継続するという内容だが、賃料が一反（約九九・七平方メートル）につき四〇円と、前年のより五〇〇倍近くに引き上げられている。このほか契約書には「山上の池や沼は天然氷を切り出すため汚水を流してはならない」とも記されている。

（「神戸新聞」平成七年一月一日）

▶長崎の稲佐郷に住むロシア士官の妻・お栄（写真）が、「開戦近し」と政府に通報。例年は冬に入港するはずのウラジオストクの艦隊が今年は来ないから、と。

毎日新聞社

この年の初もの

バナナ七籠 台湾から初入荷

●社内報　鐘淵紡績会社（現・カネボウ）が「鐘紡の汽笛」創刊。

●名誉教授　一二月、東京帝大が山川健次郎（物理学）、辰野金吾（建築）、宇野朗（医学）の三人に、名誉教授の称を贈る。

●シャッター　伊藤常太郎が巻き戸式シャッターで、わが国初の特許を取得。

●アール・ヌーボー　塚本清が「建築雑誌」で、アール・ヌーボー運動を初めて紹介。

人気は冷蔵庫、アイスクリーム、イルミネーション！

一五三日間に五三〇万人が殺到した"ミニ万博"

第五回大阪「内国勧業博」の経済効果

明治三六年三月一日、大阪で第五回内国勧業博覧会が開幕した。一五三日の期間中、入場者数は当初予想の三〇〇万人を大きく上回る五三〇万人を超え、この博覧会は人々に「電気の時代」を強くアピールした。また海外一八ヵ国から初の出展があり、この明治時代最大の国家的イベントは、大成功をおさめたのである。

▶高さ約二七メートルの正門。威風堂々の洋風建築である。手前の広場には、三頭の竜が剣に巻きついた意匠の噴水と花壇。入場者の期待を高める、みごとな演出がほどこされている。

「開国八十年史」

初めて海外からも参加 国際色豊かな「ミニ万博」

明治三六年三月一日、大阪は博覧会人気に沸き返っていた。

会場となった現在の天王寺公園一帯では、開場前から詰めかけた群衆でごったがえし、正午からの一般客の入場には守衛と巡査が必死に整理にあたった。午後二時すぎ、ついに消防夫まで投入して、いきり立つ群衆を制止する事態になった（「大阪毎日新聞」三月二日）。

この日一日の入場者は、三万三〇〇〇人を超えた。また警察発表によれば、三月一日だけで、およそ一〇万人が、会場付近に集まったという（ちなみに当時の大阪市の人口は九〇万人）。こうして、七月三一日の最終日までに観客五三〇万人を超えた（そのうち、堺市の第二会場に設けられた日本初の水族館の入場者が約一〇〇万人）明治時代最大の国家的イベント、第五回内国勧業博覧会はスタートした。

もともと内国勧業博覧会は、西南戦争中の明治一〇年に東京・上野公園で始まる。殖産興業を目的に、内務卿・大久保利通の肝いりで開かれた政府主導の博覧会であった。

第一回の入場者総数は四五万人だったが、回を追うごとに規模は拡大し、明治二八年に京都で開催された第四回博覧会は約一一四万人の入場者を数えた。それだけに、博覧会開催がもたらす経済効果も大きくなっていた。日清戦争後、日本を襲った不景気にあえいでいた大阪財界では、大阪商業会議所（会頭・土居通夫）が、そこに目をつけ、いち早く市とともに誘致に動く。そのかいあって、東京との競争に打ち勝ち、会場建設だけで一日に大工五〇〇〇人を要した大イベントの誘致に成功したのである。

不景気とはいえ、日清戦争後の日本は経済も国際的地位も飛躍的に発展していた。明治三六年当時の歳入出合計は、第四回勧業博覧会が行われた明治二八年に比べて約二・五倍の五億円に達し、輸出入合計は明治三五年には約二倍の五億三〇〇〇万円に成長していた。

そうした環境の中、二〇棟におよぶパビリオンが立ち並ぶ一〇万五〇〇〇坪の会場や、内外物産二七万六〇〇〇点という展示点数は史上最大規模となった。また、アメリカ、イギリスなど海外一八ヵ国も初めて参加し、市内に本格的ホテルがひとつしかなく、開会前から宿泊を危惧する声もあったが、外国人招待客の入場は五〇〇人を超えた。

国内産業育成・発展のために始まった国内向け博覧会に、初めて貿易を重視した国際博覧会の色彩が加わることとなったのである。

五三〇万人に与えた"夢"「二〇世紀は電気の時代」

規模の拡大、国際色もさることながら、この博覧会に五三〇万人もの入場者が集まった人気、成功の原因はひとことで言えば、この博覧会が画期的な「娯楽博」でもあったことだ。それも、初物づくしのアトラクションが目白押し。

▲日本初のウォーターシュート。12メートルの高さから5秒で95メートルを疾駆した。

「東洋画報」

▲「垂下電車」と呼ばれたドイツ製のモノレール。

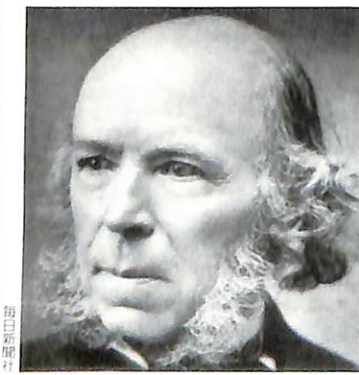
▲工事中の望遠楼。後の「通天閣」のモデル。

往きて還らぬ

▲10月31日　片岡健吉(59)
政治家。自由民権家で、明治12年国会開設運動の指導者となる。23年衆議院議員(連続8回当選)、後に衆議院議長。

▶9月13日　9代目市川団十郎(64)
歌舞伎俳優。明治7年に9代目を襲名。容貌・弁舌・技芸に優れ、「劇聖」と言われた。「活歴」と呼ぶ新史劇を創始。

▲11月12日　カミーユ・ピサロ(73)
仏の画家。印象派の代表的画家の一人で、セザンヌなどに影響を与えた。風景画を主とする。代表作「赤い屋根」など。

毎日新聞社

▲12月8日　H・スペンサー(83)
英の哲学者で、「進化哲学」を提唱し影響を与えた。1862～96年、大著『総合哲学』(10巻)を完成。

毎日新聞社

▲9月3日　津田真道(74)
官僚、法学者。慶応4年(1868)日本初の法学論『泰西国法論』を翻訳刊行。元老院議官、衆議院初代副議長など。

▲10月21日　陣幕久五郎(74)
力士。安政5年(1858)入幕、慶応3年横綱。堅実な取り口で〝負けず屋〟と言われた。引退後、大坂会所頭取総長。

▲4月5日　古河市兵衛(70)
実業家。生糸の買い付け商人から身を起こし、足尾銅山など古河財閥を築く。同時に足尾鉱毒事件の元凶となった。

▲5月8日　E・H・P・ゴーギャン(54)
仏の画家。タヒチ島などで制作し、原始芸術を生かした独特の作品を残す。代表作「黄色いキリスト」など。

▲6月29日　滝廉太郎(23)
作曲家。明治34年初の文部省留学生としてドイツ留学。「荒城の月」、歌曲集『四季』などの名曲を残した。

▲7月8日　初代伊藤忠兵衛(61)
実業家。伊藤忠商事と丸紅の始祖。「近江麻布」の卸売りを手始めに、繊維品の貿易で成功。繊維系企業も多く設立。

▲1月18日　大谷光尊(52)
西本願寺の21世法主。教団やその教育制度の近代化をはかり、刑務所で教誨なども行った。歌人の九条武子は娘。

▲1月30日　中島歌子(58)
歌人。明治10年東京・小石川に歌塾・萩の舎開設。おもに上流婦人・令嬢などに教え、樋口一葉もその門下だった。

▲2月13日　高橋泥舟(67)
旧幕臣で、槍術師範。幕末の浪士組のリーダーをつとめる。勝海舟・山岡鉄舟とともに〝幕末三舟〟と称された。

外から見たNIPPON

〝明治の風物〟を徹底記録した英国人・スミスの視線

――佐伯　修

この年一〇月三一日、英国の富豪で、ナチュラリストでもあった、リチャード・ゴードン・スミス（一八五八～一九一八）は、ガイドの山口をともなって、滞在先の横浜から東京に向かい、蔵相の曽禰荒助男爵に面会した。大英博物館から、日本やその周辺に棲息する珍しい生物の標本の収集を依嘱されていたスミスは、日本通の外交官として有名なアーネスト・サトウの紹介状をたずさえて、大臣に計画への協力を求めたのだった。

会見は成功裡に終わり、さらにその足で東大へ向かったスミスらは、動物学の大家・飯島魁の協力を取り付けることもできた。だが、飯島からもらったラット（ネズミ）の剥製を手土産に帰る途中、土砂降りの雨の中を、坂道を下りかけたところで、彼らの馬車を牽く馬たちが、突如暴走したのである。

「その瞬間、馬車の左側全体が深い溝に突っこんだ。そこには頑丈な石の壁があり、ちょうど私の座っている側だったので、最悪なことに私の眼鏡がこわれてしまった。一頭の馬は傷を負って溝の中に倒れた。御者は馬車全体も衝撃でこなごなになった。一頭の馬は傷を負って溝の中に倒れた。御者は壁にぶつかってほうりだされ、彼の助手はもう一頭の馬に強烈に蹴りとばされた。壁の一部が窓から入ってきて、私の山高帽をへこませたにもかかわらず、ヤマグチはかすり傷ひとつなく、外へ這いでた。近くの八百屋で休ませてもらっているあいだに、心配した群衆が集まってきたが、警官は一人もいなかった。山高帽とフロックコートの私、馬車と二頭の馬は、ともに見物人たちにとってはめずらしいものだったが、私が剥製のラットを包みなおしてもらえないかと頼むと、なおいっそう関心のまとになった」（荒俣宏、大橋悦子訳『ゴードン・スミスのニッポン仰天日記』より）

▲スミスが撮った答志島の海女たち。The Royal Geographical Sosiety, London　ユニフォト・プレス

鉱山業などからの収入で何不自由なく暮らし、釣り、狩猟、そして旅行などの趣味の世界にひたることができたスミスは、古きよき有閑階級の生活をエンジョイした人物だった。そんなスミスが、初めて日本に上陸したのは明治三一年末のことで、以来四〇年まで、彼は二度にわたって日本に長期滞在し、風景、生活、風俗、動植物、民俗、珍談、奇談のたぐいまでを精力的に収集・記録した。右の明治の交通事故という珍体験記も、そのひとつである。

スミスの視線には、観光旅行者、学者、好事家、ジャーナリストなどの物の見方が渾然としているが、旅の真の動機は離婚騒動だった。彼のような人物の来日の背景には、地球規模の観光旅行発達があった。

たしかに、ほとんどの日本人が初めて経験する冷蔵庫や、会場と梅田駅の間を走る蒸気乗合バス（ロコモビル）など最新技術にも人気は集まったが、夜間の会場を飾るイルミネーション、高さ約四五メートルのエレベーターつき高塔（展望台）、ウォーターシュート、メリーゴーラウンド、空中回転車、パノラマ館そして小規模な動物園と、集客にはなかなかアイデアが凝らされていた。

日本初のウォーターシュートの料金は入場料の五銭（週に四日は一〇銭）より高い二〇銭だったが、それでも行列が絶えなかったし、展望台のエレベーターの前にも物珍しさから行列ができた。会場内で販売されたアイスクリームは、買うためにできた行列で通行が邪魔されるほどの人気。そのため、六万人が食べたところで、突然、販売中止に追いこまれた。

しかし、何と言っても人気はイルミネーション。日暮れとともに、正門から美術館まで会場中央に設けられた大通路にそびえる高塔噴水や両側のパビリオンなどに、イルミネーションが輝く。日暮れ時になると、茶臼山の丘の上の美術館前は立錐の余地もないほどごみ合う。誰もがイルミネーションの点灯を見逃すまいと、固唾をのんで待っているのである。

点灯のその瞬間、大群衆の間から「アッ！」と驚きの声があがり、しばらくして「ホー」と溜息がもれてくる。「この偉観を見ざるもの、未だ以って博覧会の壮観を語るべからず候」（『大阪毎日新聞』五月五日）と評判を集め、夜間入場だけで五四万人の見物客があった。

エレベーター、冷蔵庫、イルミネーションなど「二〇世紀は電気の時代」という夢を伝えて、第五回勧業博覧会は七月三一日に幕をおろす。最終日も人の波は衰えず、閉会の時間を予定より一時間遅らせる人気であった。

「これを契機に新しい大阪の建設がスタートしたと言えます。博覧会のために梅田新道が建設され、市内の川には巡航船が運航を始め、閉会後は会場跡地に天王寺公園と新世界というアミューズメント地区ができ、初めての市電も開通しました。『大阪万博』でも経験したことですが、この博覧会は博覧会景気という経済効果のほかに、都市インフラ整備にも役立ちました」

こう語るのは、大阪市史編纂所所長の堀田暁生氏である。

▲電気がまだ普及していなかった当時、夜景のために車を飛ばして来るものもあったという。

大林組提供（二点とも）

▲驚きのまとだった冷蔵庫。建物全体も、冷蔵室として展示した。

ミニ事典

1903年のキーワード

アンデパンダン展

マチス、ドランらフランスの若い画家たちによって、パリで行われた絵画展。三月二〇日、開催。会場には鮮烈な原色があふれ、太い筆触が躍った。伝統的な写実主義に反旗をひるがえし個性解放を掲げる絵画運動、フォービズムの始まりだった。フォービズム（野獣主義）の名は、美術批評家・ボークセルが彼らの作品を「まるで野獣（フォーブ）のようだ」と評したところからきている。

▶アンリ・マチス（写真）たちは空間の単純化と大胆な色彩表現を追求した。

楽石社

吃音矯正と唖者の発音指導を事業として、三月二六日、元東京音楽学校長・東京盲唖学校長の伊沢修二が東京・小石川に設立した組織。伊沢は、明治八年に師範学科調査のため米国に留学、かたわら聾唖者の教育についてグラハム・ベルから発音を目で見分ける視話法を学んだ。これが、楽石社の指導の基本となった。

無隣庵会議

京都の山県有朋の別邸・無隣庵で、政府首脳が対露策について行った秘密会議。四月二一日、山県のもとへ伊藤博文、桂首相、小村外相が集合。ロシアが満州（中国東北部）から撤兵しない場合は断固抗議し、この機に朝鮮問題での日本の優越を認めさせることなどを申し合わせた。政府は六月に御前会議でこれを追認、対露開戦も辞さずの路線が敷かれた。

盗電裁判

横浜で起きた他家の電流を盗んだ事件に関して行われた裁判。控訴審は「窃盗を構成する所有物とは有体物に限る」として無罪を言い渡したが、五月二一日、大審院は「電気は有体物ではないが、可動性と管理可能性を有するから窃盗罪の目的となりうる」と解釈し、被告に重禁固三ヵ月の有罪判決を下した。この判決後、刑法二四五条に「電気はこれを財物とみなす」の規定が設けられた。

セルビア国王夫妻暗殺事件

「一八八九年憲法」復活を掲げる自由主義将校団が、六月一一日、ベオグラードの王宮に乱入、アレクサンドル・オブレノビチ国王をはじめ、王妃、首相、軍事相、廷臣らを射殺した事件。国民会議は、亡命中だったカラゲオルゲビチ公を満場一致で国王に指名、ペテル一世が誕生。セルビアはハプスブルク家からロシア王室に接近、後にサラエボ事件が第一次大戦へと拡大する要因となった。

日本YMCA

キリスト教に基づく青年の人格形成と社会奉仕を目的に、一八四四年にロンドンで設立された国際的宗教団体の日本支部。七月に学生YMCAと都市YMCAが、兵庫県の有馬温泉で総会を開き、日本統一支部としてスタートした。YMCA運動は日本では明治一〇年代から東京を中心に起こり、地域住民のための新聞・図書閲覧所の設置、禁酒・廃娼運動などを通じ、賛同者をふやしていた。

日本YMCA提供

▶日露戦争が始まると、YMCAの青年も前線の将兵慰問におもむいた。

神宮皇学館

伊勢神宮を中心とした国家神道の神官養成学校。明治一五年、祭教分離の必要を説く神道家らが神宮祭主・久邇宮朝彦親王の令旨により伊勢に設立。明治三六年八月三一日、内務省神宮司庁の監督に移され、官立専門学校となった。昭和一五年には国立神宮皇学館大学に昇格、第二次大戦後、占領軍により廃校させられたが、三七年、伊勢市に私立皇学館大学として再興した。

お伽芝居

お伽話を芝居仕立てにしたもの。一〇月四日、川上音二郎・貞奴の川上座が巌谷小波・岩崎舜花脚本の「狐の裁判」「浮かれ胡弓」を東京の本郷座で上演。後の児童劇の先駆となった。「狐の裁判」は民話に材を取ったもので、音二郎がキツネの頭をかぶり貞奴の獅子女王を翻弄。「浮かれ胡弓」では一転、貞奴が貧しい少年・フレッドを演じ、観客の少年少女、その父母らを楽しませた。

海軍工廠

海軍の艦船・兵器の製造・修理などを行った工場。一一月六日に海軍工廠条例が公布され、海軍省管轄下にあった造兵廠・造船廠が統一され、横須賀・呉・佐世保・舞鶴を特に海軍工廠と呼んだ。呉には製鋼部もおかれ、素材製造にも着手、その技術は民間鉄鋼業発展の礎となった。海軍工廠での造船量は太平洋戦争敗戦までの進水艦艇の四一パーセントに達し、呉では戦艦「大和」なども建造している。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▲海軍工廠と名を変える直前の10月21日、呉造船廠で進水した一等水雷艇「雲雀」。進水式の装飾はない。

『職工事情』

農商務省が行った工場の労働事情についての調査をまとめた報告書。一二月、菊判五巻一〇〇〇ページで刊行した。紡績・製糸業の急速な発展、労働運動の勃興などを背景に、明治三三年、工場法立案の基礎資料として調査開始。全国各工業の職工の種類、人数、労働時間、賃金などの雇用形態や住居・風紀などの実態、女子職工の虐待の談話までも掲載し、職工の労働実態を客観的にまとめた書として評価が高い。

スウェーデン体操

スウェーデンのリングによって提唱された解剖学・生理学に基づいて構成された体操。世界の体操の源流となった。日本にもこの年、後に東京女子高等師範学校（現・お茶の水女子大）教授となる井口あぐりらが紹介。文部省は翌年、体操遊戯調査会を設けて研究。その報告を受け、兵式訓練化していた学校体操から兵式教練を分離、大正二年の学校体操教授要目にスウェーデン体操を重要教材として採用した。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1903

CONTENTS

●編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利）＋渡邉裕二
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エー・ビー・シー・プレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石井美雄 江頭徹 大畑俊男 尾形光彦 奥村健太郎 熊切圭介 近藤千浪 崎川範行 パーシィ・T・ジョーンズ 但馬一憲 山本衛 ARCHIVE PHOTOS（イリュストラシオン） オリオン・プレス CORBIS・BETTMANN 至文堂 デジタルハウス 西日本新聞社 HULTON GETTY PNP PPS 婦人之友社 平凡社 毎日新聞社 文殊社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 ROGER VIOLLET 梅屋 大林組 加藤 日本生命 尾崎行雄記念館 京都府立総合資料館 呉市企画部海事博物館推進室 国立国会図書館 古文書複製社 The National Portrait Gallery 東京芸術大学 東京国立博物館 東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫 日仏会館図書室 日本カメラ博物館 日本近代文学館 日本ゴルフ協会 日本女子大学成瀬記念館 日本のあかり博物館 日本はきもの博物館 日本美術院 日本漫画資料館 日本郵船歴史資料館 日本YMCA ブリヂストン美術館 三笠保存会 明治大学 ライオン史料センター Wright State University Library of Congress 早稲田大学 早稲田大学演劇博物館

雑誌 23714-10/27 T1123714100565
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社